

医療保険制度における 新型コロナウイルス感染症の影響について

医療費の動向 令和2年4月～8月

医療費の動向（メディアス）の月次報告については、通常、厚生労働省のホームページ上での公表としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により患者の受診動向等に大きな変化があったと考えられることから、10月14日に令和2年4月～6月分、11月12日に令和2年7月分の一部をご報告したところである。
8月についても、受診動向等の更なる変化を注視する観点から、その一部を報告する。

- 令和2年4月～8月の医療費の伸び率（対前年同月比）を見ると、4月に▲8.8%、5月に▲11.9%と10%程度の減少、6月は▲2.4%に留まり、7月は▲4.5%と拡大したが、8月は▲3.5%と減少幅は小さくなった。
- 診療種類別では、8月になり、入院、入院外は減少幅が減少、歯科はわずかに増加に転じる一方、調剤は減少幅が拡大。
- 未就学者、医科診療所の小児科や耳鼻咽喉科は8月においても依然20%程度の減少となっており、都道府県間の減少幅の差異はわずかに拡大した。

（参考）

入院 : 4月に-6.5%、5月に-10.1%、6月に-4.0%、7月に-4.3%、8月に-3.0% の減少
入院外 : 4月に-13.7%、5月に-15.4%、6月に-2.6%、7月に-5.8%、8月に-4.7% の減少
歯科 : 4月に-15.3%、5月に-15.8%、6月に-0.2%、7月に-4.0% の減少、8月に0.9% の増加
調剤 : 4月に-3.1%、5月に-8.7%の減少、6月に0.1% の増加、7月に-3.6%、8月に-5.3%の減少

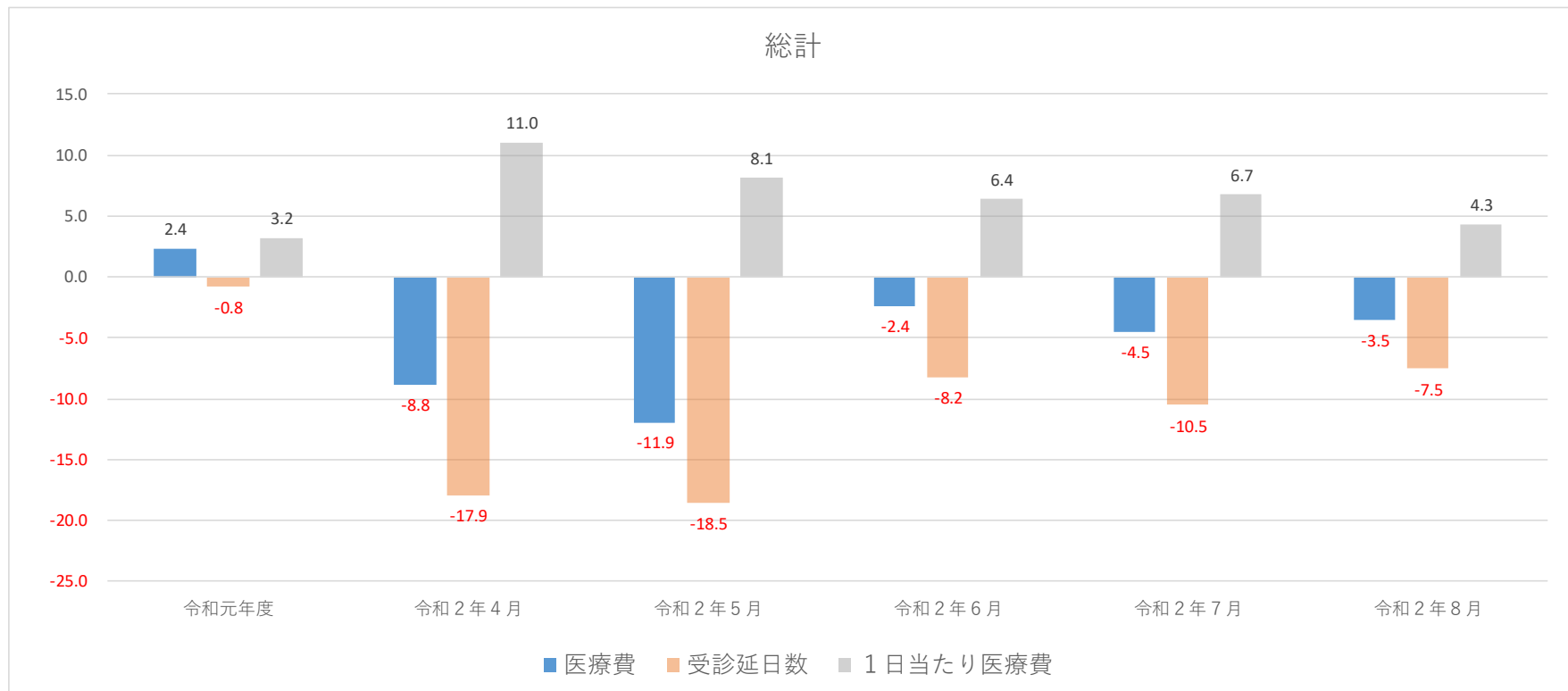
医療費の動向 令和2年4月～8月 ①概算医療費

- 令和2年4～8月の医療費の伸び（対前年同月比、以下同じ）を見ると、4月に▲8.8%、5月に▲11.9%と10%程度の減少となり、6月は▲2.4%の減少に留まり、7月は▲4.5%と減少幅は拡大したが、8月は▲3.5%と減少幅は小さくなった。
- 受診延べ日数の伸びは4月～5月は▲18～19%程度減少、6月は▲8.2%と減少幅は縮小し、7月は▲10.5%と拡大したが、8月は▲7.5%と小さくなった。
- 1日当たり医療費の伸びは4月～8月を通じてプラスで推移。

■ 総計の伸び率（対前年同月比）

（単位：%）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
医療費	2.4	-8.8	-11.9	-2.4	-4.5	-3.5
受診延日数	-0.8	-17.9	-18.5	-8.2	-10.5	-7.5
1日当たり医療費	3.2	11.0	8.1	6.4	6.7	4.3



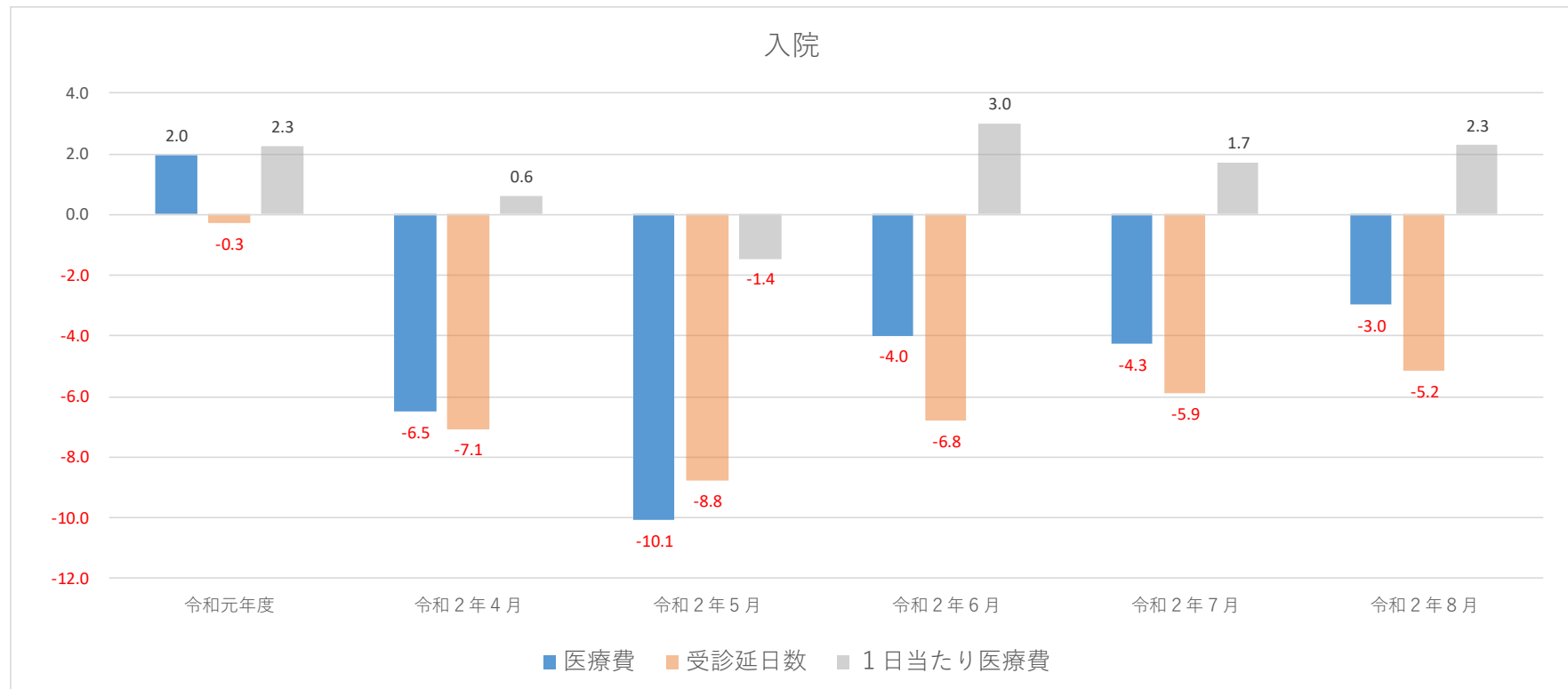
医療費の動向 令和2年4月～8月 ②－1 診療種別（入院）

- 入院医療費は、8月は▲3.0%と減少幅は縮小。
- 受診延べ日数の伸びは4月～8月を通じてマイナスで推移。1日当たり医療費は5月のみ減少している。

■ 入院の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
医療費	2.0	-6.5	-10.1	-4.0	-4.3	-3.0
受診延日数	-0.3	-7.1	-8.8	-6.8	-5.9	-5.2
1日当たり医療費	2.3	0.6	-1.4	3.0	1.7	2.3



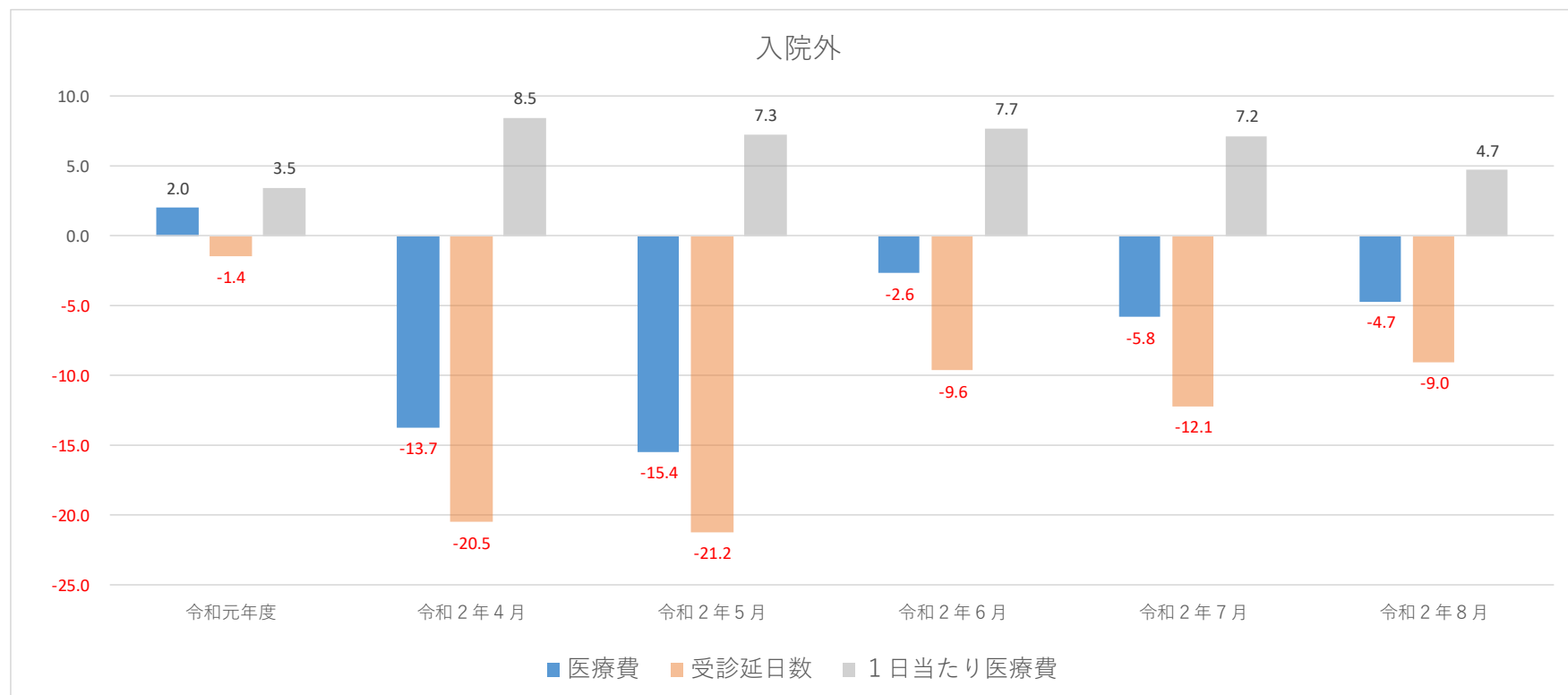
医療費の動向 令和2年4月～8月 ②－2 診療種別（入院外）

- 入院外医療費は6月に▲2.6%の減少に留まり、7月は▲5.8%と減少幅は拡大したが、8月は▲4.7%と減少幅は縮小。
- 受診延べ日数は4月～5月は2割を超える減少となったが、6月～8月の減少幅は1割程度。
- 1日当たり医療費は4月～7月を通じて7～8%程度の増加となったが、8月は4.7%と増加幅は縮小。

■ 入院外の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
医療費	2.0	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7
受診延日数	-1.4	-20.5	-21.2	-9.6	-12.1	-9.0
1日当たり医療費	3.5	8.5	7.3	7.7	7.2	4.7



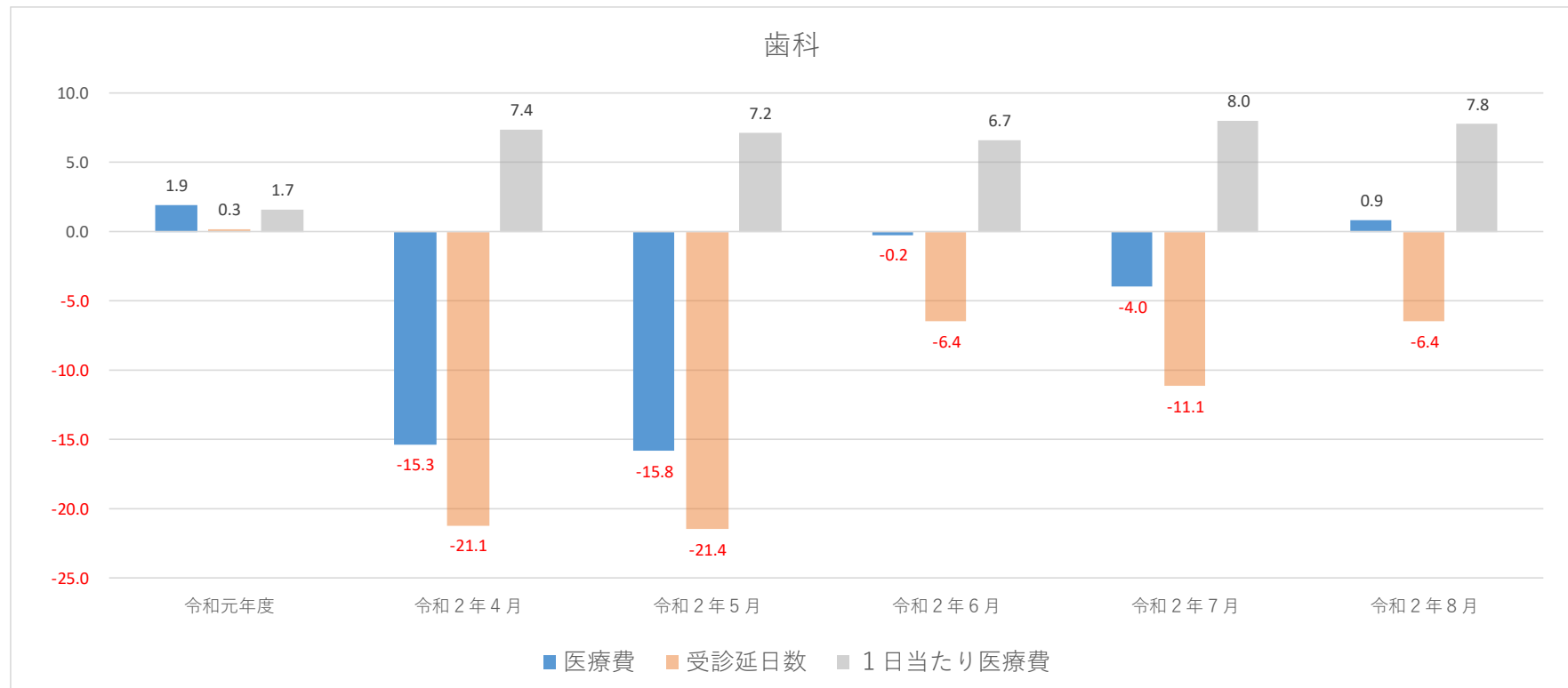
医療費の動向 令和2年4月～8月 ②－3 診療種別（歯科）

- 歯科医療費は、6月に▲0.2%の減少とほぼ前年並みとなり、7月は▲4.0%の減少となったが、8月は0.9%とわずかに増加。
- 受診延べ日数は、6月の減少幅▲6.4%から7月は▲11.1%に拡大したが、8月は再び▲6.4%となった。
- 1日当たり医療費は4月～8月を通じて6～8%程度の増加。

■ 歯科の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
医療費	1.9	-15.3	-15.8	-0.2	-4.0	0.9
受診延日数	0.3	-21.1	-21.4	-6.4	-11.1	-6.4
1日当たり医療費	1.7	7.4	7.2	6.7	8.0	7.8



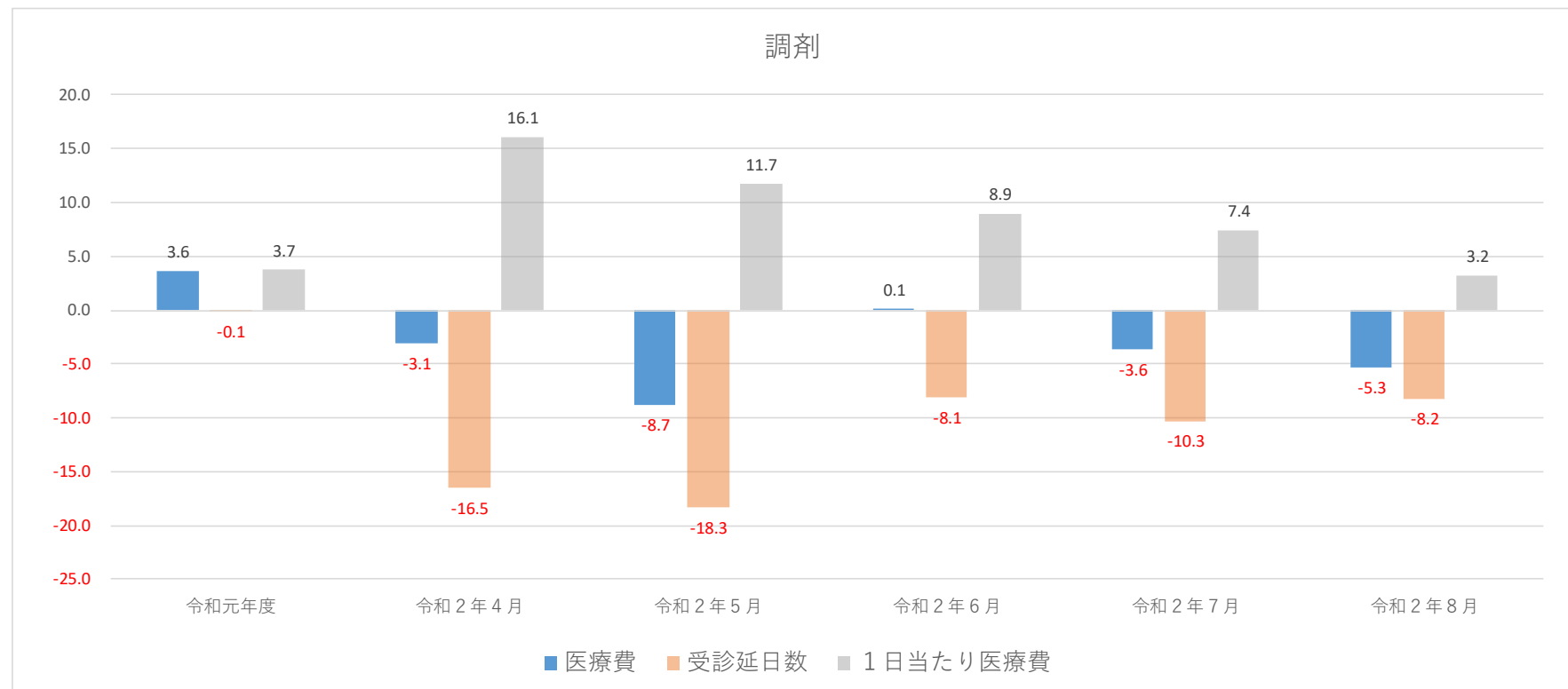
医療費の動向 令和2年4月～8月 ②－4 診療種別（調剤）

- 調剤医療費は、6月に+0.1%とほぼ前年並みとなったが、7月は▲3.6%と減少、8月は▲5.3%と減少幅は拡大。
- 受診延日数は入院外と同様4月～5月に▲16～▲18%程度と大きな減少となったが、6月～8月の減少幅は1割程度と縮小。
- 1日当たり医療費は4月に+16.1%と大きな伸びとなり、以降伸び率は低下傾向。

■ 調剤の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
医療費	3.6	-3.1	-8.7	0.1	-3.6	-5.3
受診延日数 ※	-0.1	-16.5	-18.3	-8.1	-10.3	-8.2
1日当たり医療費	3.7	16.1	11.7	8.9	7.4	3.2



※受診延日数は「処方せん枚数（受付回数）」を集計したもの

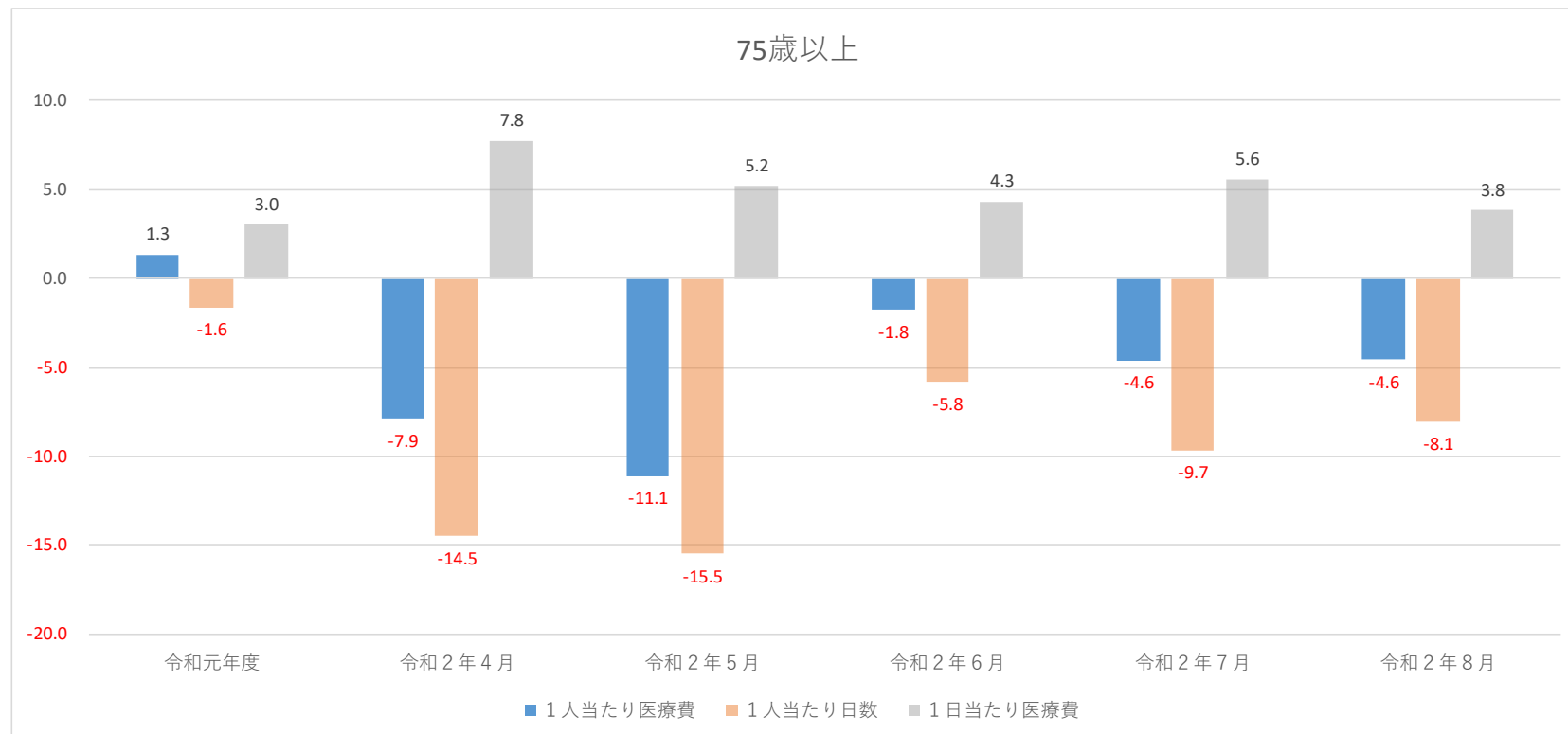
医療費の動向 令和2年4月～8月 ③－1 75歳以上の状況

○ 8月の1人当たり日数の減少幅、1日当たり医療費の増加幅は小さくなり、1人当たり医療費の減少幅は7月と同程度となった。

■ 75歳以上の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
1人当たり医療費	1.3	-7.9	-11.1	-1.8	-4.6	-4.6
1人当たり日数	-1.6	-14.5	-15.5	-5.8	-9.7	-8.1
1日当たり医療費	3.0	7.8	5.2	4.3	5.6	3.8



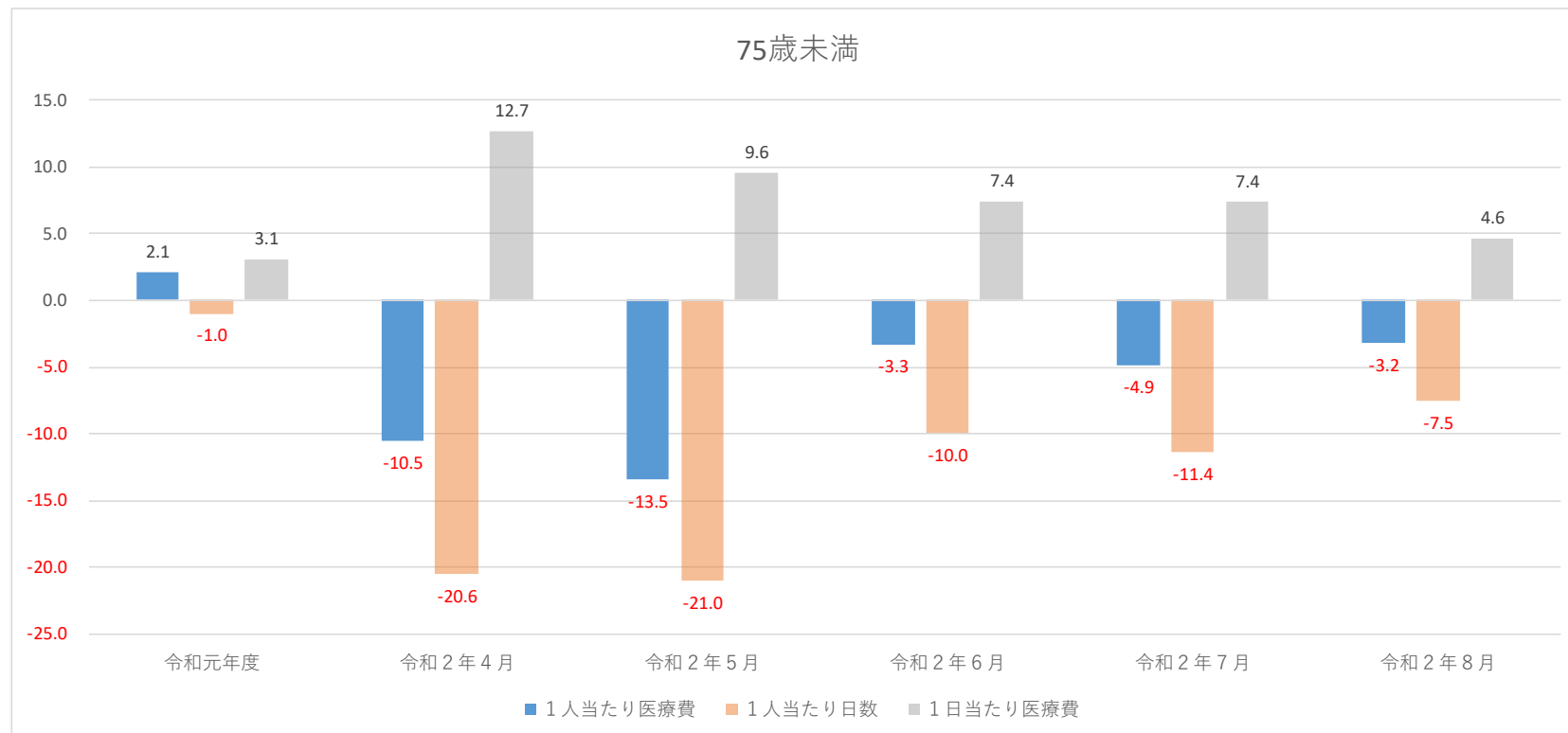
医療費の動向 令和2年4月～8月 ③－2 75歳未満の状況

○ 8月は75歳以上と比べ、1日当たり医療費の増加幅は大きく、1人当たり医療費、1人当たり日数の減少幅は小さくなった。

■ 75歳未満の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
1人当たり医療費	2.1	-10.5	-13.5	-3.3	-4.9	-3.2
1人当たり日数	-1.0	-20.6	-21.0	-10.0	-11.4	-7.5
1日当たり医療費	3.1	12.7	9.6	7.4	7.4	4.6



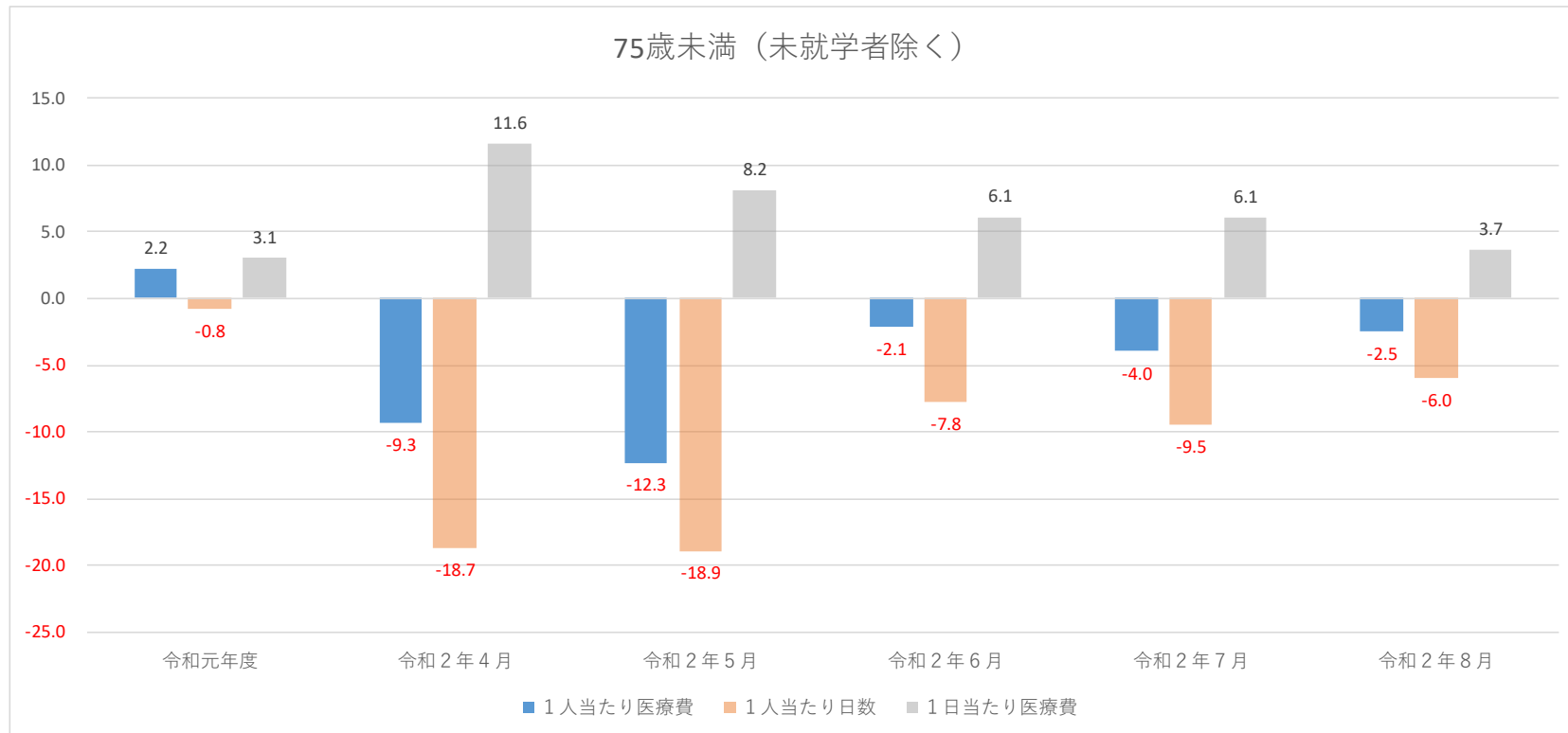
医療費の動向 令和2年4月～8月 ③－3 75歳未満（未就学者除く）の状況

○ 未就学者を除くと、1人当たり医療費の減少幅は▲2.5%とさらに小さくなる。

■ 75歳未満（未就学者除く）の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：%）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
1人当たり医療費	2.2	-9.3	-12.3	-2.1	-4.0	-2.5
1人当たり日数	-0.8	-18.7	-18.9	-7.8	-9.5	-6.0
1日当たり医療費	3.1	11.6	8.2	6.1	6.1	3.7



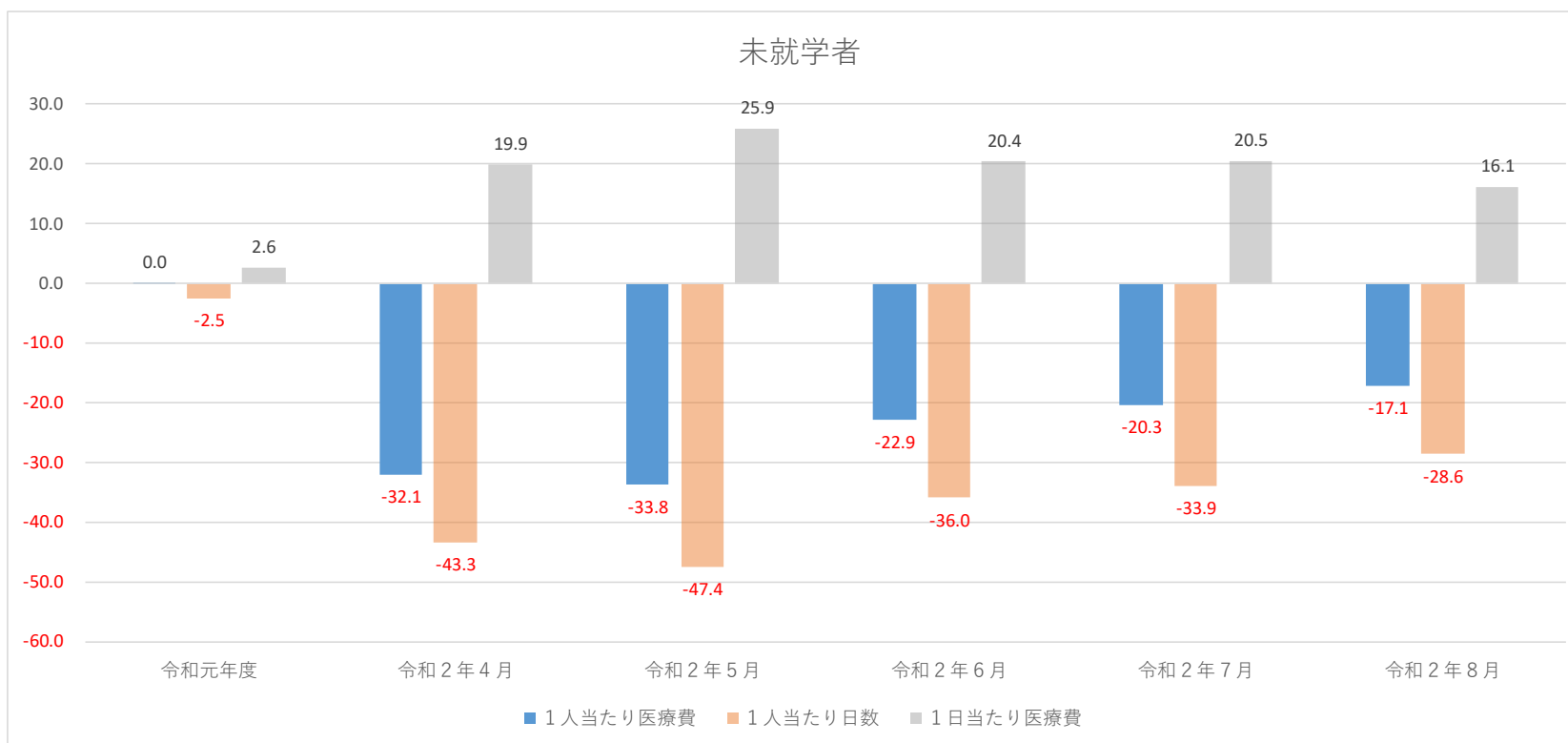
医療費の動向 令和2年4月～8月 ③-4 未就学者の状況

○ 未就学者については8月においても受診日数の減少、1日当たり医療費の増加、医療費の減少が対前年同月比は依然15%を超えている。

■ 未就学者の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
1人当たり医療費	0.0	-32.1	-33.8	-22.9	-20.3	-17.1
1人当たり日数	-2.5	-43.3	-47.4	-36.0	-33.9	-28.6
1日当たり医療費	2.6	19.9	25.9	20.4	20.5	16.1



医療費の動向 令和2年4月～8月 ④診療科別の状況

- 入院外について、医科診療所の主たる診療科別の伸び率を見ると、小児科・耳鼻咽喉科の減少幅が小さくなってきているものの、依然、他の診療科に比べ減少幅は大きい。

■ 伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	医療費						受診延日数						1日当たり医療費					
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
医科診療所	0.8	▲16.3	▲15.7	▲4.2	▲6.8	▲4.2	▲1.3	▲21.0	▲20.4	▲10.0	▲12.3	▲8.0	2.1	6.0	5.9	6.4	6.2	4.2
内科	0.4	▲11.6	▲12.1	▲2.4	▲4.9	▲3.6	▲1.7	▲15.6	▲18.0	▲8.8	▲11.0	▲8.3	2.1	4.8	7.1	7.0	6.9	5.0
小児科	0.1	▲38.4	▲44.9	▲31.9	▲26.8	▲21.8	▲2.2	▲42.8	▲51.1	▲40.1	▲35.3	▲30.3	2.3	7.8	12.6	13.6	13.1	12.2
外科	▲1.3	▲18.5	▲17.2	▲7.7	▲12.3	▲11.5	▲4.6	▲21.3	▲20.3	▲11.6	▲16.6	▲13.7	3.5	3.6	3.8	4.3	5.2	2.5
整形外科	1.8	▲18.3	▲14.9	▲1.6	▲6.7	▲3.1	▲1.0	▲22.7	▲19.1	▲6.8	▲11.8	▲6.4	2.8	5.7	5.1	5.5	5.8	3.5
皮膚科	1.9	▲15.2	▲6.0	6.2	▲5.4	2.5	1.2	▲14.2	▲5.1	5.6	▲5.7	2.4	0.6	▲1.2	▲1.0	0.6	0.3	0.1
産婦人科	1.4	▲14.9	▲11.9	▲0.1	▲2.7	1.6	0.8	▲15.9	▲13.8	▲4.2	▲6.7	▲2.7	0.6	1.2	2.3	4.3	4.4	4.4
眼科	2.3	▲19.7	▲21.4	▲2.0	▲4.9	0.3	▲1.3	▲25.8	▲24.0	▲7.5	▲7.0	▲3.2	3.6	8.1	3.4	5.9	2.2	3.6
耳鼻咽喉科	▲2.7	▲42.6	▲40.1	▲28.5	▲21.9	▲17.2	▲4.3	▲42.3	▲41.5	▲33.8	▲26.7	▲21.6	1.7	▲0.6	2.4	8.0	6.5	5.7
その他	2.3	▲11.1	▲10.0	0.5	▲3.3	▲1.9	1.4	▲11.2	▲10.5	▲1.8	▲5.5	▲3.2	0.8	0.1	0.5	2.3	2.3	1.3

医療費の動向 令和2年4月～8月 ⑤都道府県別の状況

○ 都道府県別に入院外の医療費の伸び率を見ると、7月にデータの散らばりの度合いを表す分散は令和元年度と同等と、その差は小さくなり、8月にわずかに分散が大きくなったものの、データの散らばりは引き続き小さい。

■伸び率（対前年同月比）

	医療費					
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
全国	2.0	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7
北海道	2.2	-10.9	-15.5	-0.4	-4.4	-5.3
青森県	1.2	-8.7	-11.8	0.2	-5.3	-5.4
岩手県	0.9	-6.5	-10.9	0.2	-6.1	-4.2
宮城県	1.7	-11.0	-14.3	-0.9	-6.5	-4.2
秋田県	1.2	-8.5	-10.7	1.1	-5.5	-4.7
山形県	0.8	-12.5	-15.3	0.1	-6.7	-5.0
福島県	0.9	-9.6	-14.8	-2.6	-6.2	-5.2
茨城県	1.6	-14.1	-14.9	-2.2	-5.3	-4.9
栃木県	2.5	-10.8	-14.4	-3.2	-6.8	-6.2
群馬県	1.6	-12.3	-14.5	-3.1	-6.4	-5.8
埼玉県	2.6	-16.3	-16.0	-3.6	-5.4	-3.8
千葉県	2.2	-15.5	-16.6	-4.3	-5.5	-4.3
東京都	2.9	-20.9	-19.5	-5.0	-6.3	-4.4
神奈川県	2.4	-16.9	-17.5	-5.0	-6.1	-4.1
新潟県	1.2	-8.9	-13.2	0.5	-6.6	-5.5
富山県	1.8	-11.9	-17.2	-2.3	-5.6	-4.6
石川県	1.4	-15.1	-17.8	-2.6	-5.3	-5.5
福井県	0.4	-17.7	-16.9	-1.2	-7.0	-6.1
山梨県	2.1	-13.0	-13.4	-1.3	-5.0	-5.1
長野県	1.9	-10.3	-13.9	-0.1	-4.7	-4.0
岐阜県	1.2	-14.4	-14.3	-2.1	-5.6	-5.1
静岡県	2.3	-8.3	-11.9	-0.3	-4.9	-3.8
愛知県	2.5	-12.2	-13.1	-1.3	-5.4	-4.4

	医療費					
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
三重県	1.2	-12.3	-14.4	-2.0	-6.4	-6.0
滋賀県	2.3	-14.2	-15.8	-3.2	-5.7	-5.2
京都府	1.8	-14.0	-15.9	-3.0	-6.1	-4.5
大阪府	2.1	-14.5	-15.9	-3.3	-5.9	-4.2
兵庫県	2.1	-15.6	-16.7	-3.2	-6.1	-4.0
奈良県	3.2	-11.1	-13.1	-2.3	-4.2	-4.0
和歌山県	0.9	-10.2	-11.8	-1.6	-5.9	-4.9
鳥取県	1.5	-7.6	-12.2	-1.7	-5.2	-4.3
島根県	1.8	-7.5	-12.5	1.3	-5.5	-4.2
岡山県	2.1	-8.7	-14.2	-0.9	-5.5	-4.9
広島県	1.7	-10.8	-14.8	-1.8	-6.1	-3.8
山口県	0.6	-10.8	-14.2	-2.3	-6.1	-3.9
徳島県	1.3	-8.5	-10.4	-0.3	-6.1	-6.7
香川県	1.2	-10.9	-13.4	-1.2	-5.9	-5.4
愛媛県	2.0	-11.8	-14.3	-2.6	-6.1	-5.0
高知県	0.1	-12.5	-14.3	-1.1	-5.9	-5.0
福岡県	1.7	-16.0	-17.1	-4.6	-6.3	-4.5
佐賀県	2.5	-10.0	-12.5	0.6	-4.3	-1.0
長崎県	1.1	-8.6	-12.4	-0.7	-7.5	-5.7
熊本県	1.0	-11.8	-14.4	-3.9	-7.1	-6.0
大分県	1.0	-12.2	-12.8	-0.5	-5.4	-8.7
宮崎県	2.0	-7.5	-9.5	1.2	-3.1	-6.4
鹿児島県	1.7	-7.2	-10.8	-0.2	-5.4	-5.1
沖縄県	4.2	-14.8	-19.1	-3.6	-6.4	-8.4

最大：	4.2	-6.5	-9.5	1.3	-3.1	-1.0
最小：	0.1	-20.9	-19.5	-5.0	-7.5	-8.7
分散※：	0.6	9.9	5.1	2.8	0.7	1.4

※分散とは、データの散らばりの度合いを表す値

: 医療費の伸び率 上位10県（減少幅が小さい）
 : 医療費の伸び率 下位10県（減少幅が大きい）

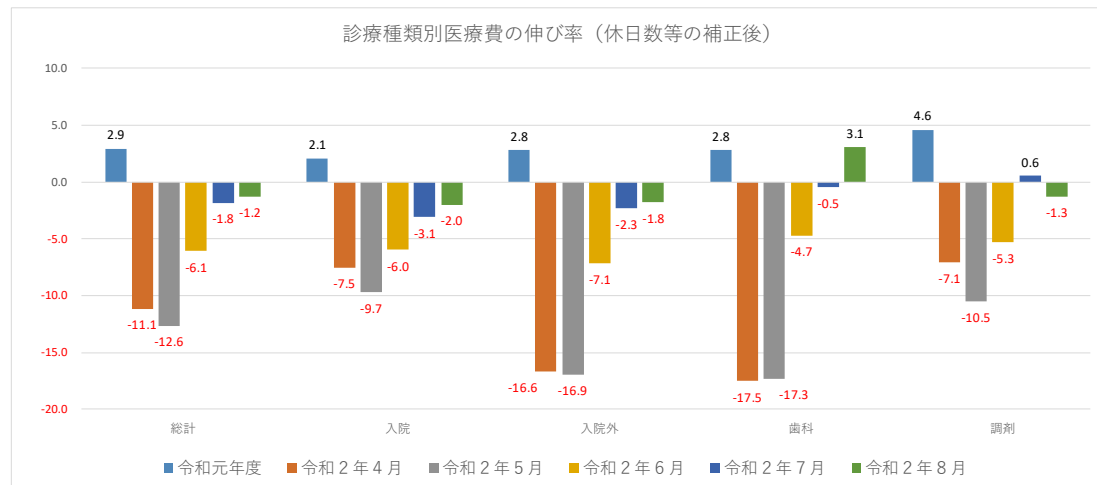
医療費の動向 令和2年4月～8月 ⑥休日数等の調整後の医療費の伸び率

○ 休日数等の調整後の医療費の伸び率を見ると、いずれの診療種類においても、6月～8月にかけて減少幅は縮小している。

■ 診療種類別医療費の伸び率（休日数等の補正後・対前年同期比）（単位：％）

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
総計	2.9	-11.1	-12.6	-6.1	-1.8	-1.2
入院	2.1	-7.5	-9.7	-6.0	-3.1	-2.0
入院外	2.8	-16.6	-16.9	-7.1	-2.3	-1.8
歯科	2.8	-17.5	-17.3	-4.7	-0.5	3.1
調剤	4.6	-7.1	-10.5	-5.3	0.6	-1.3

		令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
前年同期差	日曜・祭日等	+3	-1	-1	-1	+1	+1
	土曜	+2	0	+2	-1	0	0
	休日でない木曜	+1	+1	0	0	0	-1



（参考）医療費の伸び率（対前年同月比）に対する休日数等の対前年同月差の影響補正係数（平成22年度～）

	日曜・祭日等	土曜	休日でない木曜
総計	-2.7	-1.0	-0.4
入院	-1.2	-0.8	-0.2
入院外	-3.5	-1.0	-0.6
歯科	-3.5	-1.0	-1.3
調剤	-4.2	-1.2	-0.2

注。

休日数等の影響を補正した医療費の伸び率は、平成16～21年度の各月の制度別等の1人当たり医療費の伸び率（診療報酬改定等及び閏日の影響を除く）を、日曜・祭日等（年末年始については、12月29日～1月3日を日曜として扱っている）の数、土曜日の数、休日でない木曜日の数、1定点当たりインフルエンザ報告数（国立感染症研究所感染症情報センター「サーベイランス」）、花粉症の影響を表すデータ（環境省花粉観測システムの観測地点・観測時刻データの単純平均）の対前年同月差を説明変数として重回帰分析した結果を用いて補正したものである。

なお、総計及び公費については、医療保険計について重回帰分析した結果を用いて補正している。

電子レセプトを用いた医科(入院・入院外)医療費の分析 ＜令和2年4月～8月＞

レセプト電算処理システムにより処理された診療報酬明細書(電子レセプト)のうち医科入院、医科入院外分を用いて集計、医療費の動向について詳細を分析。
ただし、以下の点について留意が必要。
・医科入院外分は月毎に100分の1の抽出率でランダム抽出したデータを用いていること。
・電算化率の変動が医療費の伸び率に影響を与えること(電算化率は入院は95%程度、入院外は98%程度)

- 年齢階級別では、入院・入院外ともに依然、「0歳以上 5歳未満」などの若齢層の減少幅が大きいですが、入院外については、これまで減少幅が大きかった「5歳以上 10歳未満」層などの減少幅が小さくなった。
- 疾病分類別では、入院・入院外ともに「呼吸器系の疾患」の減少が医療費の減少に大きく影響しており、8月においても、引き続き、その影響が大きい。
- 診療内容別では、入院は「DPC包括部分」とともに「手術・麻酔」の減少の影響が大きく、入院外は「初診」、「検査・病理診断」の減少の影響が大きい。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～8月 ①年齢階級別

- 依然、「0歳以上 5歳未満」層の減少幅が大きい。
- 入院外については、令和2年8月には、「5歳以上 10歳未満」層の減少幅は小さくなり、「10歳以上 15歳未満」層はプラスに転じた。

■ 入院 1人当たり医療費 伸び率

(単位：%)

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
総数	2.5	-6.1	-10.7	-4.1	-4.5	-3.5
0歳以上 5歳未満	0.8	-19.3	-21.1	-15.8	-17.5	-15.2
5歳以上 10歳未満	3.4	-24.2	-27.4	-17.8	-20.5	-16.6
10歳以上 15歳未満	2.8	-12.2	-15.6	-4.6	-14.7	-6.7
15歳以上 20歳未満	4.3	-13.5	-16.3	-11.0	-21.3	-13.7
20歳以上 25歳未満	0.7	-10.3	-16.7	-8.1	-5.2	-10.4
25歳以上 30歳未満	0.3	-9.5	-12.6	-8.4	-7.1	-5.0
30歳以上 35歳未満	0.6	-7.1	-11.2	-4.2	-4.8	-2.5
35歳以上 40歳未満	0.7	-7.2	-12.0	-4.4	-2.7	-3.3
40歳以上 45歳未満	1.7	-6.0	-11.5	-6.0	-6.2	-4.6
45歳以上 50歳未満	0.9	-7.6	-12.4	-5.8	-6.1	-5.2
50歳以上 55歳未満	0.3	-6.7	-11.2	-5.3	-5.2	-4.4
55歳以上 60歳未満	1.3	-5.4	-11.1	-5.1	-5.5	-4.9
60歳以上 65歳未満	1.2	-5.0	-11.3	-6.1	-5.4	-3.2
65歳以上 70歳未満	1.2	-5.7	-12.0	-5.7	-5.2	-3.3
70歳以上 75歳未満	0.9	-7.1	-13.2	-5.4	-5.5	-3.6
75歳以上 80歳未満	1.1	-7.2	-13.0	-4.9	-5.0	-3.9
80歳以上 85歳未満	1.1	-7.7	-11.4	-4.5	-5.0	-5.0
85歳以上 90歳未満	0.8	-7.8	-9.9	-4.1	-5.0	-4.5
90歳以上 95歳未満	1.0	-7.4	-9.4	-4.5	-5.4	-5.4
95歳以上 100歳未満	-1.0	-8.4	-10.7	-6.0	-7.0	-8.3
100歳以上	3.6	-7.6	-8.5	-5.9	-9.0	-10.1

■ 入院外 1人当たり医療費 伸び率

(単位：%)

	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
総数	2.7	-12.7	-15.0	-2.7	-5.4	-4.7
0歳以上 5歳未満	-0.7	-44.5	-51.5	-37.6	-27.9	-28.9
5歳以上 10歳未満	-1.7	-38.2	-42.9	-22.1	-16.5	-5.9
10歳以上 15歳未満	0.4	-39.2	-32.4	-16.3	-6.7	4.8
15歳以上 20歳未満	0.3	-35.3	-20.9	-13.3	2.0	9.3
20歳以上 25歳未満	3.4	-15.9	-12.4	1.7	-16.8	-3.4
25歳以上 30歳未満	2.9	-17.6	-18.6	0.8	-7.9	1.2
30歳以上 35歳未満	4.0	-15.9	-21.5	-5.3	-1.7	-0.2
35歳以上 40歳未満	2.8	-15.6	-17.2	-6.1	-5.2	-4.7
40歳以上 45歳未満	1.8	-14.4	-16.1	-5.3	-0.6	-3.3
45歳以上 50歳未満	1.3	-10.3	-10.4	-8.0	-6.8	2.6
50歳以上 55歳未満	0.9	-9.8	-8.5	1.0	-4.9	-8.2
55歳以上 60歳未満	3.3	-6.0	-11.6	-3.2	-7.6	-6.3
60歳以上 65歳未満	1.6	-11.3	-10.1	2.3	-4.0	-1.7
65歳以上 70歳未満	2.9	-9.3	-15.7	-0.8	-6.6	-6.9
70歳以上 75歳未満	2.4	-10.6	-13.4	-0.3	-4.6	-7.4
75歳以上 80歳未満	1.3	-10.2	-15.7	-2.9	-4.9	-6.0
80歳以上 85歳未満	2.7	-11.7	-14.8	-1.7	-5.1	-5.9
85歳以上 90歳未満	1.3	-13.5	-9.2	2.6	-5.5	-3.5
90歳以上 95歳未満	0.7	-10.6	-12.3	0.3	-1.3	-6.3
95歳以上 100歳未満	-0.2	-10.5	-1.3	0.2	6.7	-0.7
100歳以上	4.7	24.1	-17.9	11.6	-13.6	-14.6

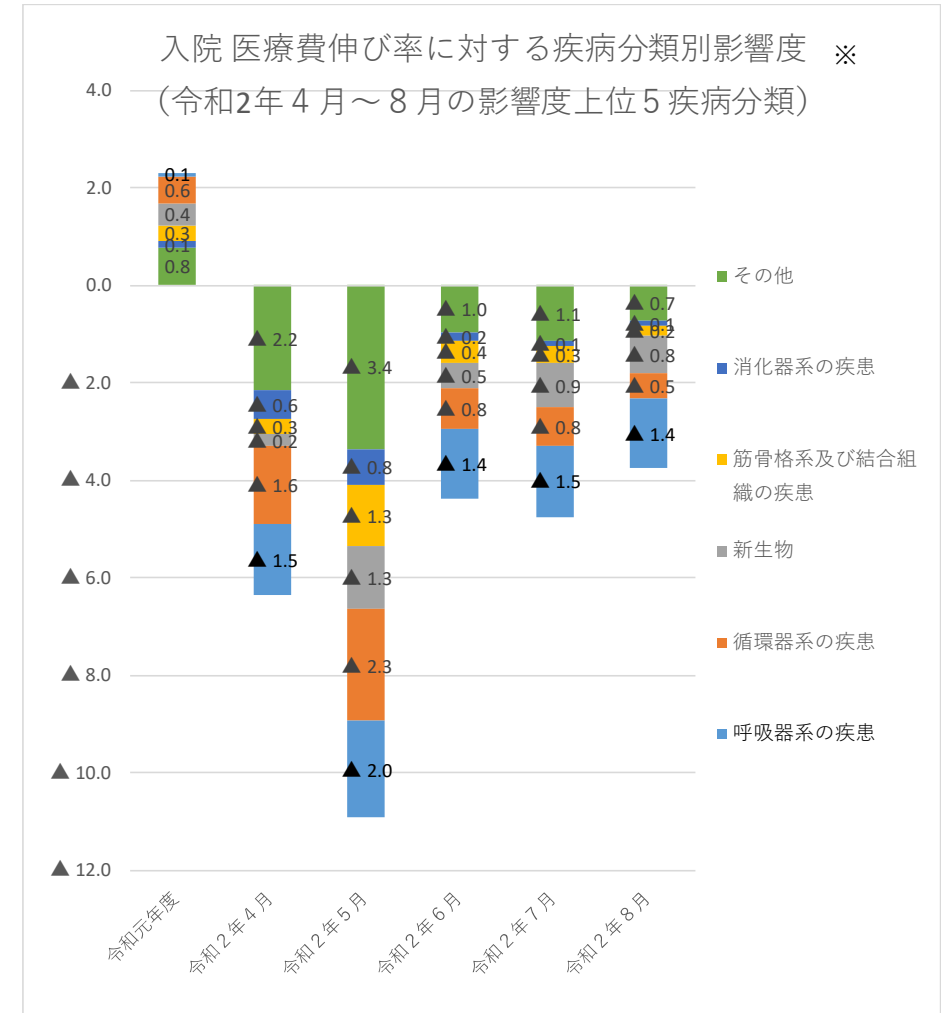
：伸び率の下位3階級（減少幅が大きい）

※ 1人当たり医療費の算出にあたり、各年齢階級毎の人数は総務省統計局「人口推計」における5歳階級別人口を用いた。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～8月 ②-1 疾病分類別 入院

○ 疾病分類別の医療費の伸び率見ると、「眼及び付属器の疾患」や「耳及び乳様突起の疾患」、「呼吸器系の疾患」の減少幅が大きいですが、医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、「呼吸器系の疾患」や「循環器系の疾患」が大きく、「呼吸器系の疾患」は8月になっても減少幅が大きいまま。

■ 入院 疾病分類別医療費の伸び率	(単位：%)						(単位：%)
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和元年度医療費の構成割合
総数	2.3	▲ 6.4	▲ 10.9	▲ 4.4	▲ 4.7	▲ 3.8	100.0
感染症及び寄生虫症	1.2	▲ 16.2	▲ 14.8	▲ 7.4	▲ 4.1	▲ 2.2	1.4
新生物	2.7	▲ 1.5	▲ 8.1	▲ 3.2	▲ 5.5	▲ 4.7	16.4
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3.7	▲ 6.4	▲ 7.5	▲ 4.9	▲ 3.2	▲ 4.3	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.4	▲ 8.3	▲ 9.9	▲ 4.0	▲ 3.4	▲ 3.4	2.7
精神及び行動の障害	▲ 0.4	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 1.2	▲ 1.0	▲ 1.1	8.6
神経系の疾患	4.0	▲ 1.5	▲ 3.9	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.0	6.5
眼及び付属器の疾患	3.4	▲ 13.9	▲ 38.8	▲ 16.9	▲ 17.1	▲ 12.2	1.5
耳及び乳様突起の疾患	0.4	▲ 30.5	▲ 33.8	▲ 19.3	▲ 13.3	▲ 14.9	0.3
循環器系の疾患	2.6	▲ 7.0	▲ 10.3	▲ 3.7	▲ 3.6	▲ 2.5	21.9
呼吸器系の疾患	1.1	▲ 23.2	▲ 29.6	▲ 23.3	▲ 23.5	▲ 22.2	6.3
消化器系の疾患	2.0	▲ 10.0	▲ 13.0	▲ 3.2	▲ 1.8	▲ 1.9	5.9
皮膚及び皮下組織の疾患	3.6	▲ 5.6	▲ 7.7	▲ 0.5	0.4	▲ 0.8	0.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	4.8	▲ 4.5	▲ 18.4	▲ 6.0	▲ 4.5	▲ 2.8	7.2
泌尿生殖器系の疾患	4.4	▲ 4.6	▲ 7.9	▲ 0.9	▲ 1.9	▲ 0.4	4.2
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 1.7	▲ 2.4	▲ 6.3	0.0	▲ 3.0	▲ 1.8	1.1
周産期に発生した病態	0.4	4.2	6.4	11.6	0.1	5.0	0.9
先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	▲ 11.1	▲ 18.7	▲ 7.3	▲ 9.3	▲ 6.2	0.8
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されない損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.3	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.6	▲ 8.2	▲ 8.5	0.9
不詳	▲ 11.4	▲ 14.0	▲ 17.4	▲ 19.4	▲ 17.2	▲ 16.8	1.5



▲ : 下位5疾病分類 (減少幅が大きい) ※不詳除く

▲ : 上位5疾病分類

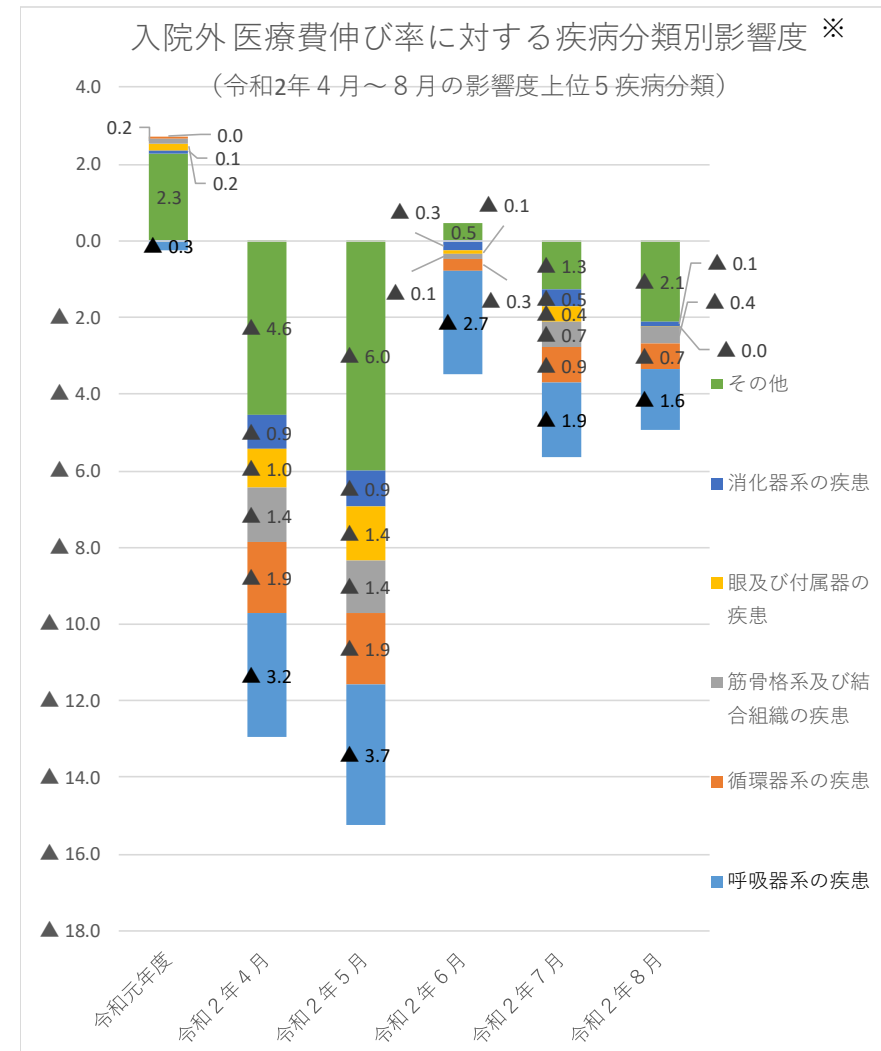
※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～8月 ②-2 疾病分類別 入院外

○ 疾病分類別の医療費の伸び率を見ると、「耳及び乳様突起の疾患」、「呼吸器系の疾患」の減少幅が大きく、医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、「呼吸器系の疾患」の影響が大きく、8月になっても減少幅が大きいまま。

■ 入院外 疾病分類別医療費の伸び率	(単位：%)						令和元年度 医療費の 構成割合
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	
総数	2.5	▲ 13.0	▲ 15.2	▲ 3.0	▲ 5.6	▲ 4.9	100.0
感染症及び寄生虫症	▲ 3.6	▲ 20.7	▲ 26.9	▲ 12.2	▲ 17.0	▲ 7.1	2.5
新生物	9.4	▲ 3.3	▲ 11.7	4.0	2.3	▲ 5.9	12.3
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	25.4	3.6	▲ 4.7	▲ 12.4	▲ 3.7	▲ 5.7	1.2
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.7	▲ 6.6	▲ 6.5	0.7	▲ 2.4	▲ 4.9	10.6
精神及び行動の障害	1.2	▲ 10.1	▲ 10.6	▲ 0.2	▲ 4.0	▲ 1.4	4.0
神経系の疾患	4.7	▲ 2.7	▲ 3.0	1.4	0.4	0.5	3.3
眼及び付属器の疾患	2.6	▲ 17.2	▲ 22.7	▲ 1.5	▲ 5.8	▲ 0.5	6.0
耳及び乳様突起の疾患	▲ 0.9	▲ 30.6	▲ 30.6	▲ 16.1	▲ 12.1	▲ 12.3	0.9
循環器系の疾患	0.2	▲ 11.3	▲ 11.9	▲ 2.1	▲ 5.8	▲ 4.2	15.7
呼吸器系の疾患	▲ 3.1	▲ 38.1	▲ 46.6	▲ 35.9	▲ 27.3	▲ 24.9	8.1
消化器系の疾患	1.8	▲ 16.6	▲ 18.3	▲ 4.7	▲ 8.5	▲ 2.0	5.3
皮膚及び皮下組織の疾患	5.5	▲ 11.3	▲ 8.4	6.9	▲ 2.1	0.2	3.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	1.7	▲ 15.8	▲ 14.9	▲ 1.3	▲ 7.6	▲ 4.9	8.9
泌尿生殖器系の疾患	3.9	▲ 2.9	▲ 5.7	6.3	▲ 1.0	▲ 2.7	10.9
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 5.8	▲ 9.9	▲ 4.4	▲ 5.1	2.8	▲ 1.7	0.1
周産期に発生した病態	▲ 1.7	▲ 38.3	19.6	20.1	24.6	▲ 6.9	0.2
先天奇形、変形及び染色体異常	5.9	▲ 26.5	▲ 15.9	12.5	6.7	5.2	0.4
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないも損傷、中毒及びその他の外因の影響	1.4	▲ 24.1	▲ 23.9	▲ 2.6	▲ 7.5	▲ 0.4	2.7
不詳	▲ 7.3	▲ 20.8	▲ 23.7	▲ 13.0	▲ 10.6	▲ 13.9	2.0

▲ : 下位5疾病分類 (減少幅が大きい) ※不詳除く ▲ : 上位5疾病分類

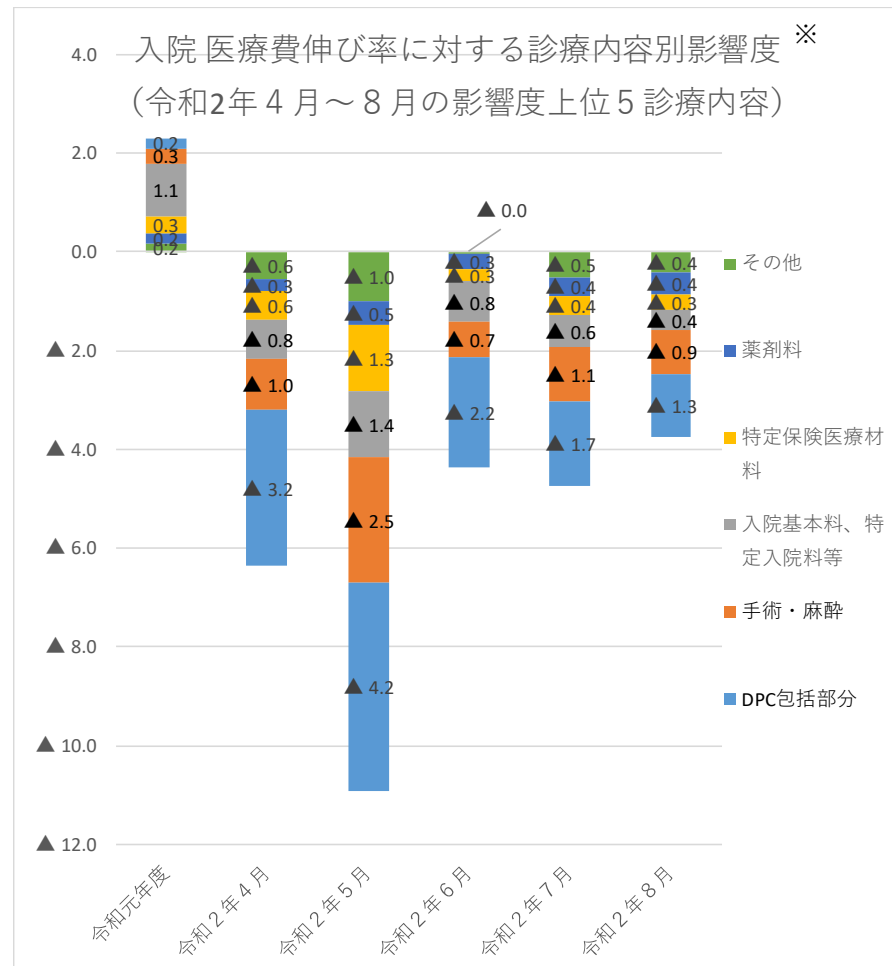


※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～8月 ③-1 診療内容別 入院

○ 診療内容別に医療費の伸び率を見ると、「手術・麻酔」や「初診」、「特定保険医療材料」の減少幅が大きいですが、医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、構成割合の大きい「DPC包括部分」や「手術・麻酔」の影響が大きい。

■ 入院 診療内容別医療費の伸び率	(単位：%)						(単位：%) 令和元年度 医療費の 構成割合
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	
総数	2.3	▲ 6.4	▲ 10.9	▲ 4.4	▲ 4.7	▲ 3.8	100.0
初診	0.6	▲ 22.3	▲ 18.3	▲ 8.7	▲ 12.0	▲ 8.7	0.1
医学管理	0.2	▲ 9.5	▲ 14.6	▲ 0.8	▲ 5.6	▲ 3.1	0.7
在宅	▲ 0.1	▲ 11.8	▲ 12.8	▲ 9.2	▲ 6.0	▲ 4.2	0.1
投薬	▲ 2.0	▲ 5.7	▲ 7.0	▲ 7.1	▲ 6.8	▲ 6.6	0.1
注射	▲ 3.1	▲ 8.2	▲ 9.4	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 9.6	0.2
処置	2.5	▲ 3.2	▲ 5.1	▲ 1.6	▲ 4.1	▲ 4.6	1.4
手術・麻酔	2.5	▲ 8.8	▲ 22.0	▲ 5.9	▲ 9.0	▲ 7.4	11.9
検査・病理診断	▲ 1.2	▲ 15.2	▲ 19.1	▲ 6.7	▲ 11.4	▲ 8.9	1.3
画像診断	▲ 0.8	▲ 10.3	▲ 13.1	▲ 1.0	▲ 9.1	▲ 6.9	0.5
リハビリテーション	2.6	2.6	▲ 0.3	6.7	1.5	1.5	5.1
精神科専門療法	1.9	1.2	▲ 3.9	10.1	▲ 0.6	1.2	0.5
放射線治療	3.0	2.2	▲ 12.1	3.6	▲ 6.9	▲ 3.7	0.3
入院基本料、特定入院料等	3.1	▲ 2.3	▲ 3.8	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 1.1	35.1
DPC包括部分	0.8	▲ 11.4	▲ 15.0	▲ 8.0	▲ 6.2	▲ 4.6	27.9
薬剤料	6.6	▲ 6.9	▲ 13.6	▲ 8.5	▲ 10.0	▲ 11.6	3.7
特定保険医療材料	5.2	▲ 8.7	▲ 21.3	▲ 4.0	▲ 6.0	▲ 5.4	6.4
入院時食事療養	0.1	▲ 6.8	▲ 9.1	▲ 7.1	▲ 5.7	▲ 5.1	3.7
生活療養食事療養	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 3.0	▲ 2.8	▲ 2.9	0.7
生活療養環境療養	▲ 0.2	▲ 1.8	▲ 2.5	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 2.9	0.2
その他	▲ 0.4	▲ 5.5	20.7	12.5	▲ 21.3	54.0	0.0



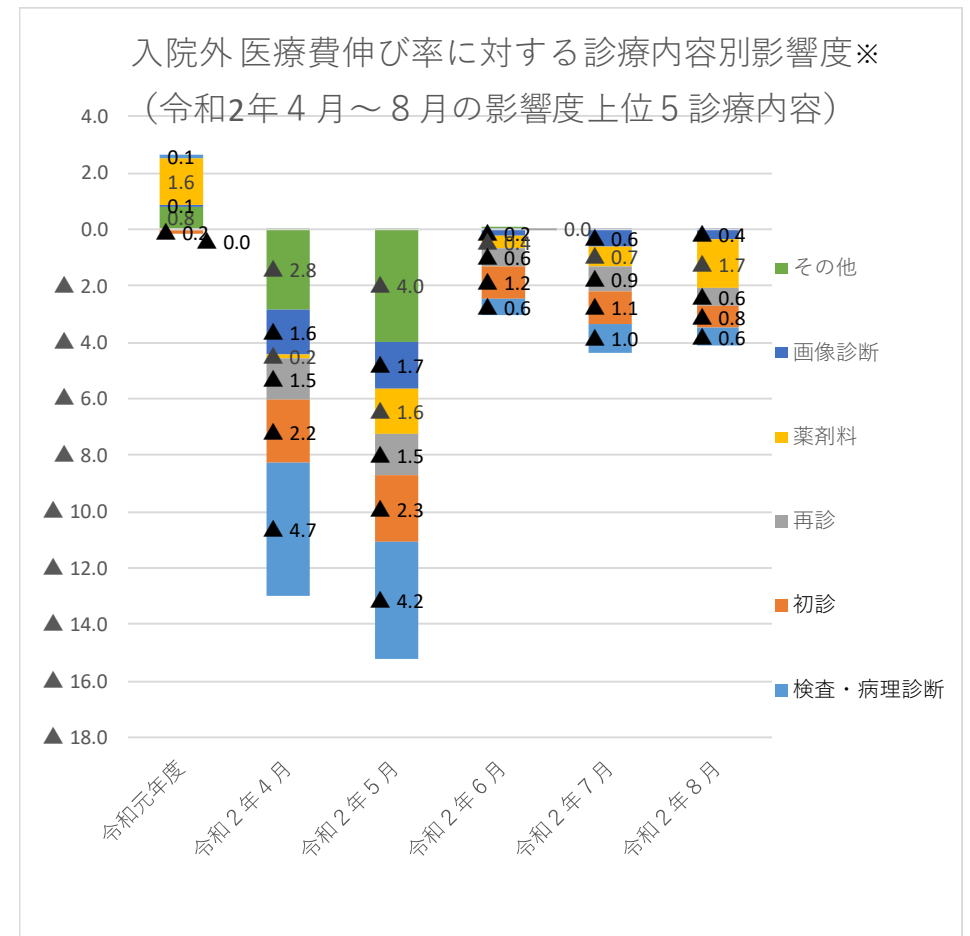
▲ : 下位5診療内容 (減少幅が大きい) ※その他除く
▲ : 上位5診療内容

※影響度は (各診療内容の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～8月 ③-2 診療内容別 入院外

○ 診療内容別に医療費の伸び率を見ると、「初診」や「検査・病理診断」、「画像診断」の減少幅が大きく、医療費全体の伸び率に対する影響度では、「初診」「検査・病理診断」が大きい。8月においては「薬剤料」の減少が大きく影響している。

診療内容	（単位：％）						令和元年度医療費の構成割合
	令和元年度	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	
総数	2.5	▲ 13.0	▲ 15.2	▲ 3.0	▲ 5.6	▲ 4.9	100.0
初診	▲ 2.9	▲ 42.6	▲ 41.3	▲ 21.0	▲ 21.3	▲ 15.6	5.4
再診	▲ 0.3	▲ 16.5	▲ 17.3	▲ 7.3	▲ 10.2	▲ 7.3	8.7
医学管理	0.4	▲ 11.8	▲ 15.2	▲ 4.8	▲ 4.5	▲ 3.1	8.3
在宅	4.7	4.3	2.4	9.9	5.5	7.3	6.1
投薬	▲ 4.4	▲ 13.0	▲ 15.0	▲ 5.3	▲ 8.4	▲ 6.2	1.2
注射	▲ 0.7	▲ 15.1	▲ 15.2	▲ 3.4	▲ 9.1	▲ 9.4	0.7
処置	3.0	▲ 4.5	▲ 6.5	2.4	▲ 2.8	▲ 3.1	8.7
手術・麻酔	5.2	▲ 9.0	▲ 21.7	▲ 1.0	▲ 6.8	▲ 3.7	2.8
検査・病理診断	0.8	▲ 25.1	▲ 22.5	▲ 3.1	▲ 5.7	▲ 3.3	18.4
画像診断	0.7	▲ 23.0	▲ 23.5	▲ 3.3	▲ 8.3	▲ 5.5	6.9
処方箋料	0.5	▲ 13.1	▲ 15.6	▲ 5.9	▲ 8.1	▲ 6.3	4.8
リハビリテーション	1.0	▲ 20.4	▲ 21.7	▲ 0.7	▲ 5.4	▲ 2.8	1.5
精神科専門療法	1.1	▲ 13.3	▲ 14.1	▲ 0.2	▲ 6.1	▲ 6.0	2.2
放射線治療	5.6	7.0	▲ 6.4	▲ 1.4	▲ 9.0	▲ 2.7	0.6
薬剤料	7.6	▲ 0.7	▲ 7.2	▲ 1.9	▲ 3.2	▲ 7.3	22.7
特定保険医療材料	4.8	0.8	1.8	8.6	6.2	▲ 1.1	1.0
その他	13.7	16.7	▲ 12.2	▲ 21.4	▲ 4.1	16.7	0.0



※影響度は（各疾病分類の医療費の増減分）÷（前期の医療費総数）×100 で算定

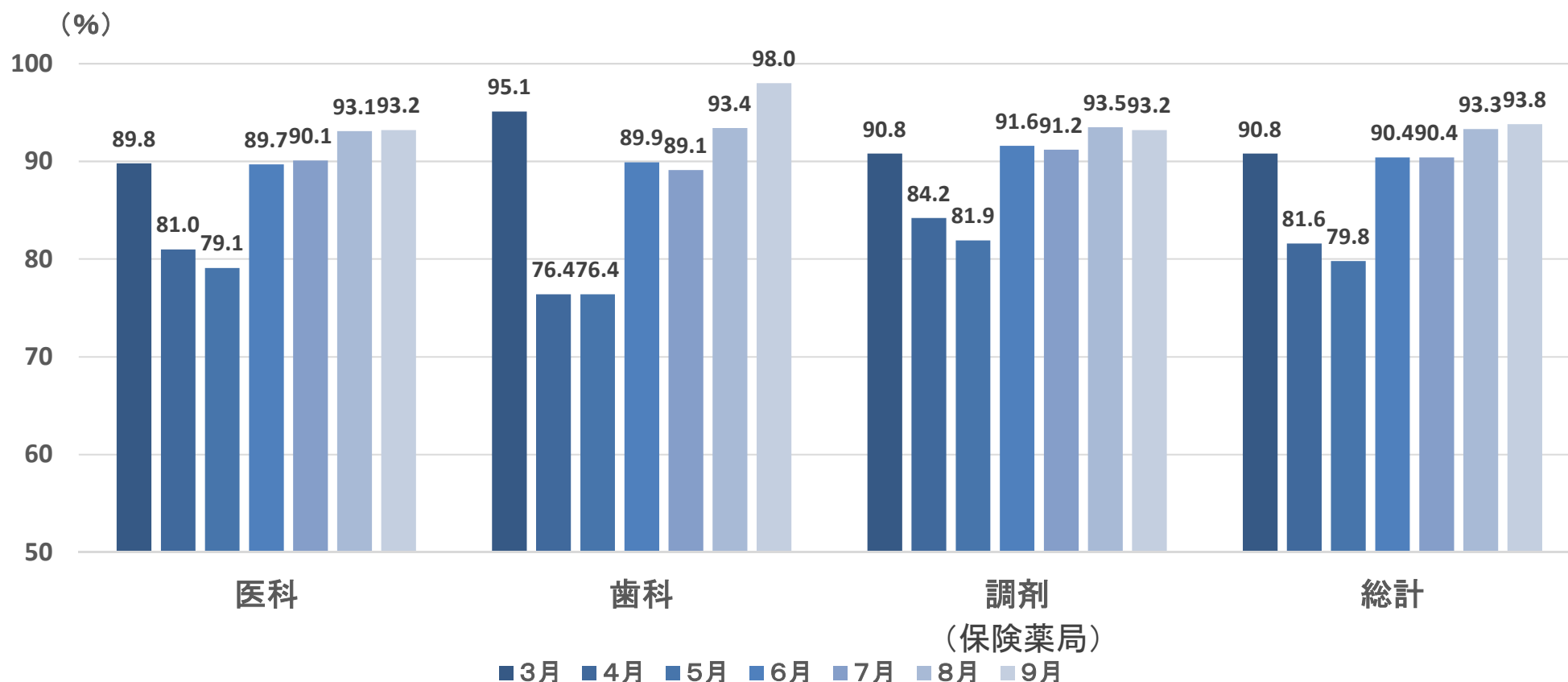
■ 下位5診療内容（減少幅が大きい） ※その他除く ■ 上位5診療内容

レセプト件数・点数に関する調査

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化①（診療種別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、4月以降、医科、歯科、調剤いずれにおいても、減少が見られるが、6月には下げ幅に回復がみられた。

診療種別レセプト件数の前年同月比



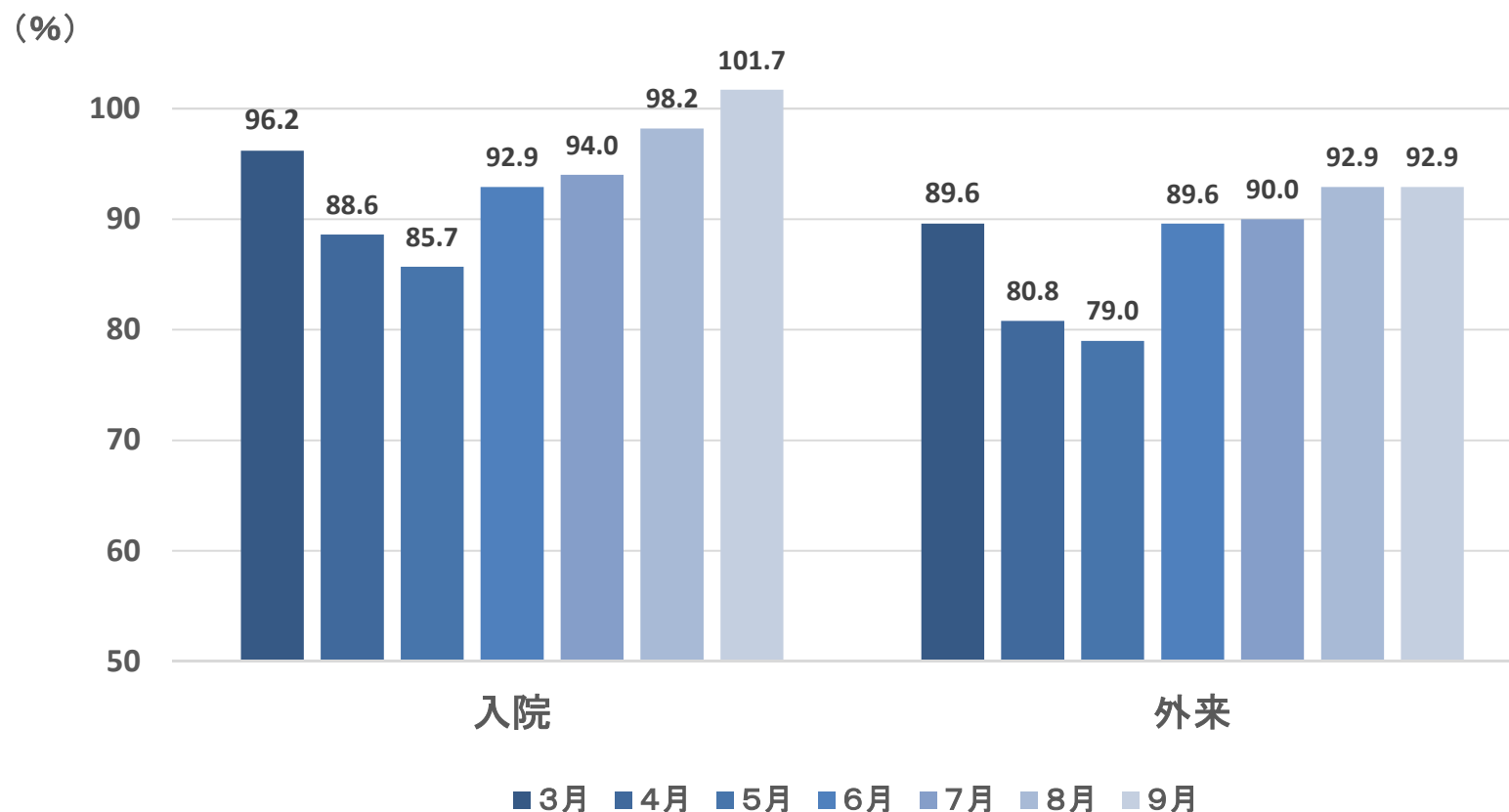
※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

※2 総計には、訪問看護療養費が含まれる。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化②（医科のうち入院・外来別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、入院、外来ともに減少しているが、外来の減少幅の方が大きい。双方とも6月には下げ幅に回復がみられ、入院の方が回復傾向にある。

医科のうち入院・外来別レセプト件数の前年同月比

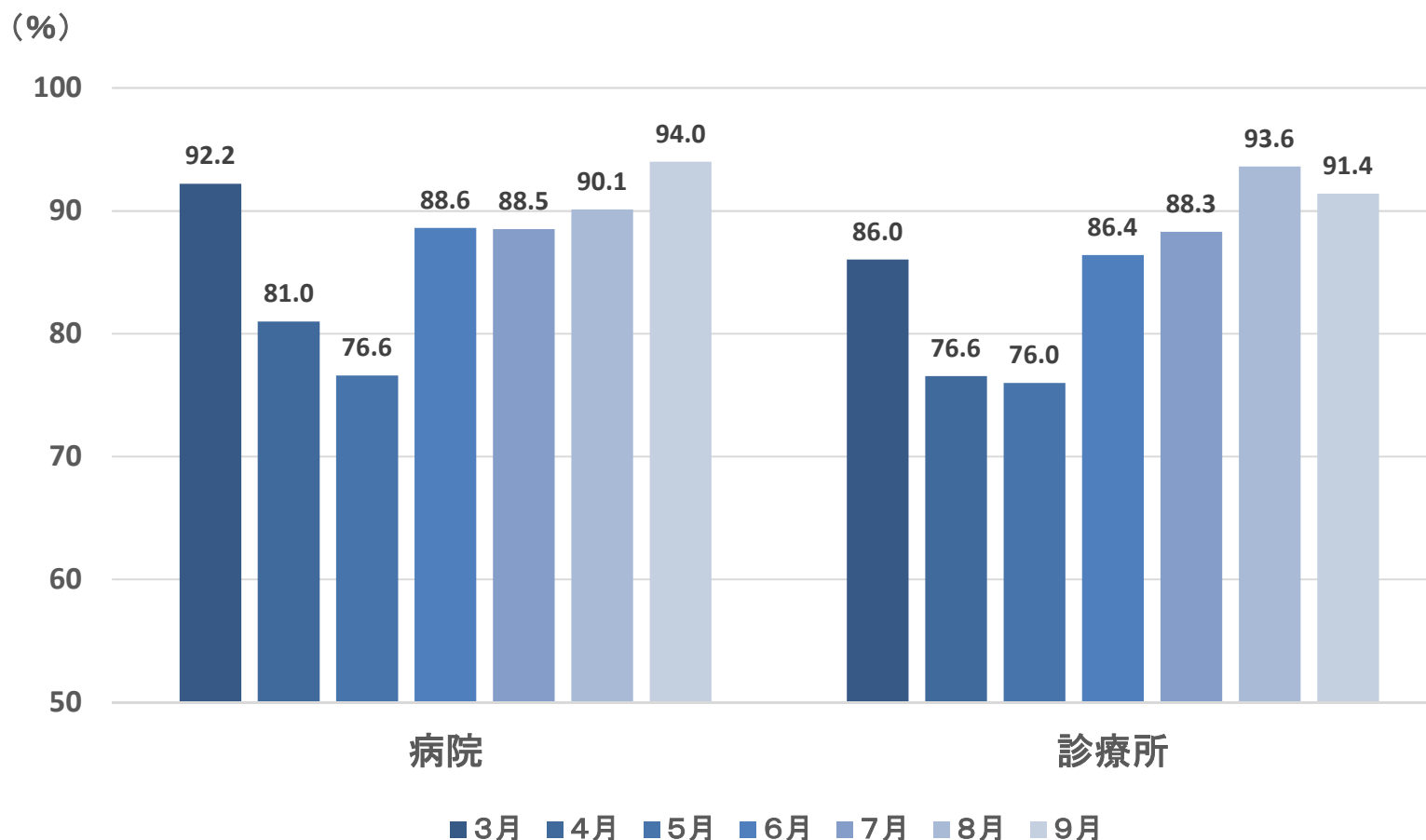


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化③（医科のうち病院・診療所別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、3月以降、病院も診療所も減少しているが、6月には下げ幅に回復がみられた。

医科のうち病院・診療所別レセプト件数の前年同月比

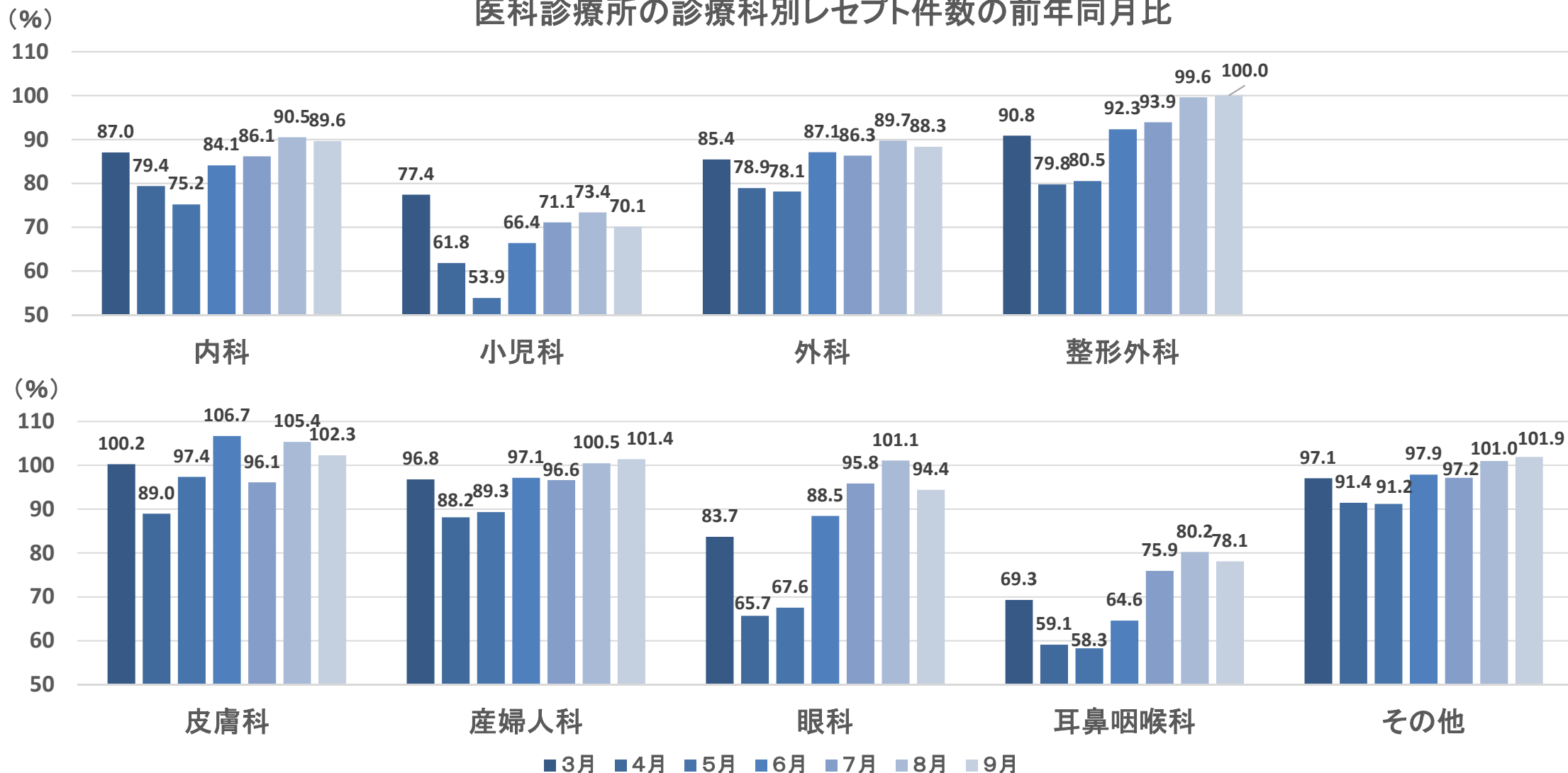


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報によるレセプト件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
※2 再審査等の調整前の数値。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化④（医科診療所の診療科別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、4月、5月は、いずれの診療科も減少しているが、小児科、耳鼻咽喉科の減少が顕著。6月には下げ幅に回復がみられたが、診療科ごとにバラツキがある。

医科診療所の診療科別レセプト件数の前年同月比

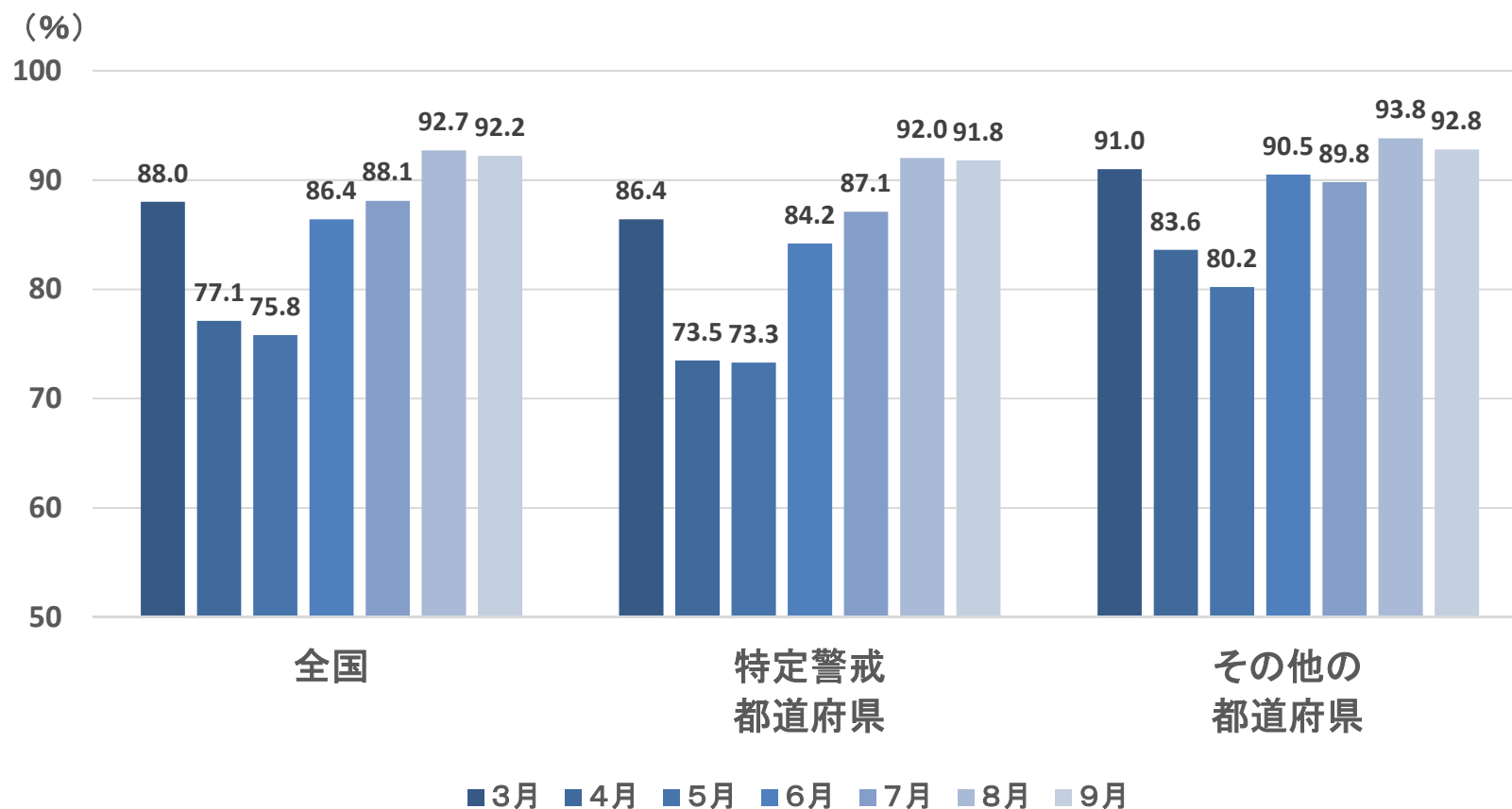


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報によるレセプト件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 再審査等の調整前の数値。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化⑤（地域別）

○ 地域別のレセプト件数の前年同月比で見ると、3月以降は、特定警戒都道府県の方が、減少幅が大きい。双方とも6月には下げ幅に回復がみられ、地域別の差も小さくなった。

地域別レセプト総件数の前年同月比

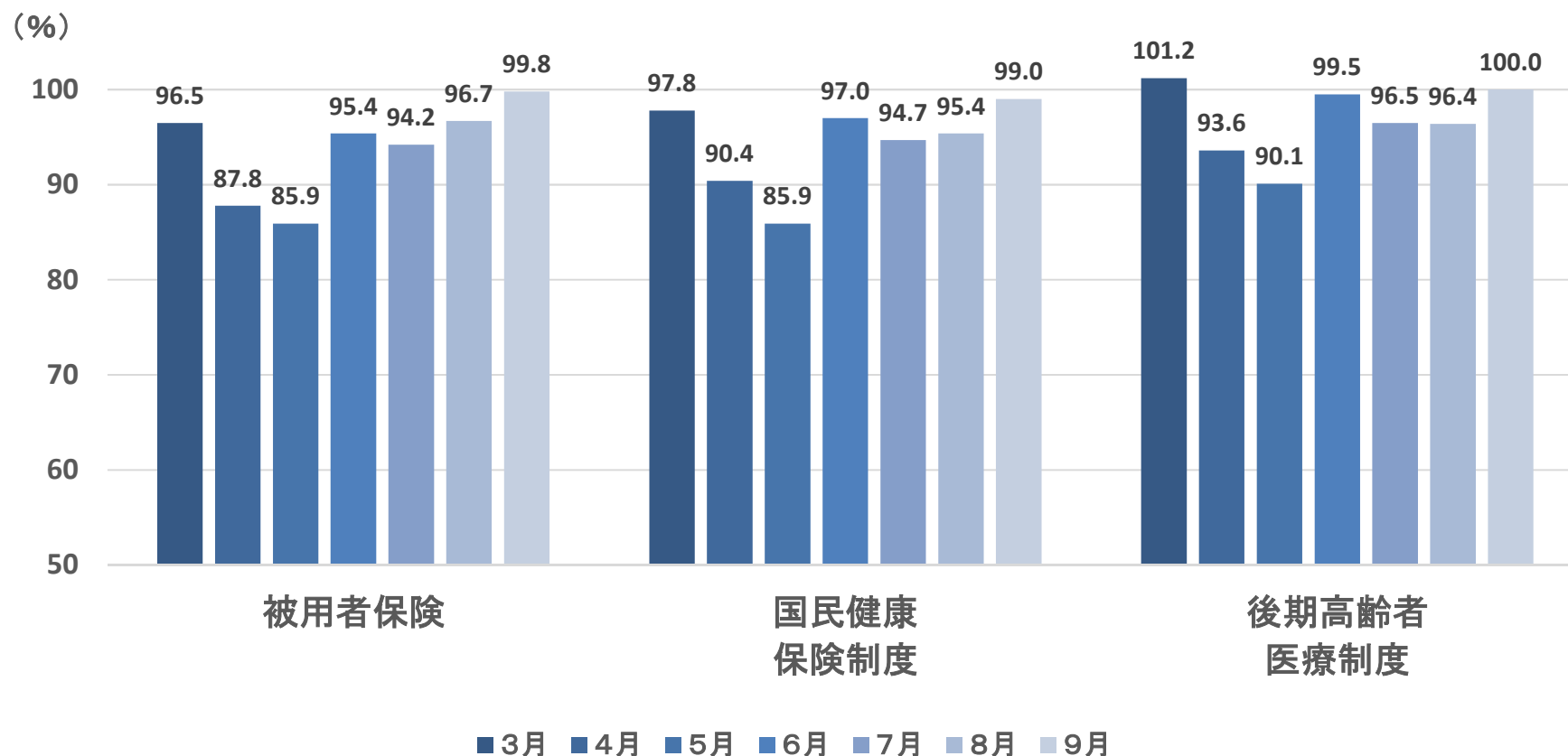


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報によるレセプト件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 特定警戒都道府県とは、4月16日に対策本部が、特に重点的に感染拡大防止の取組を進めていく必要があると位置づけた13の都道府県。
 （北海道・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・岐阜・愛知・石川・京都・大阪・兵庫・福岡）

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化①（制度別）

○ 制度別にレセプト点数を前年同月比で見ると、後期高齢者医療制度の減少幅が相対的に小さい。なお、いずれの制度においても4月、5月と大きく減少したが、6月以降は、減少幅に回復がみられた。

制度別レセプト総点数の前年同月比

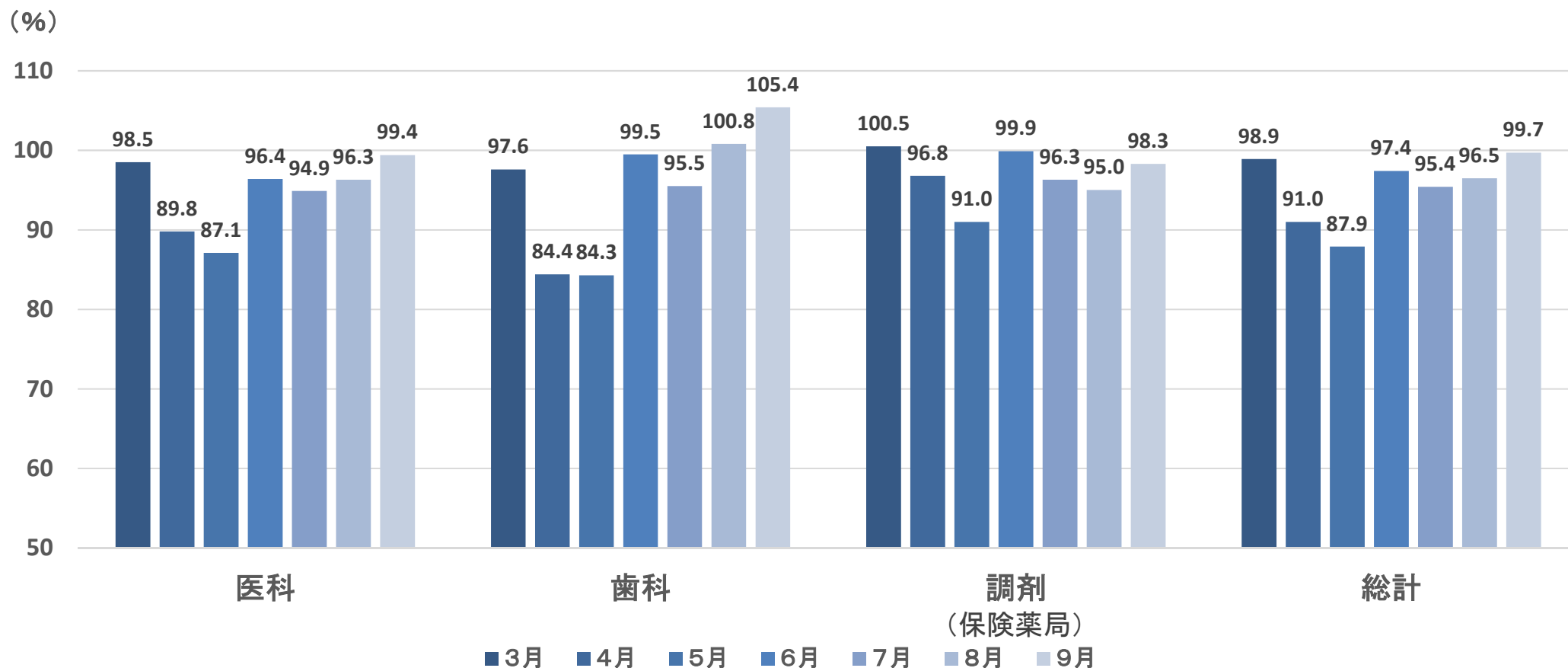


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化②（診療種類別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月は医科、歯科において減少が見られ、5月には調剤も含め更に減少している。6月には下げ幅に回復がみられた。

診療種類別総点数の前年同月比



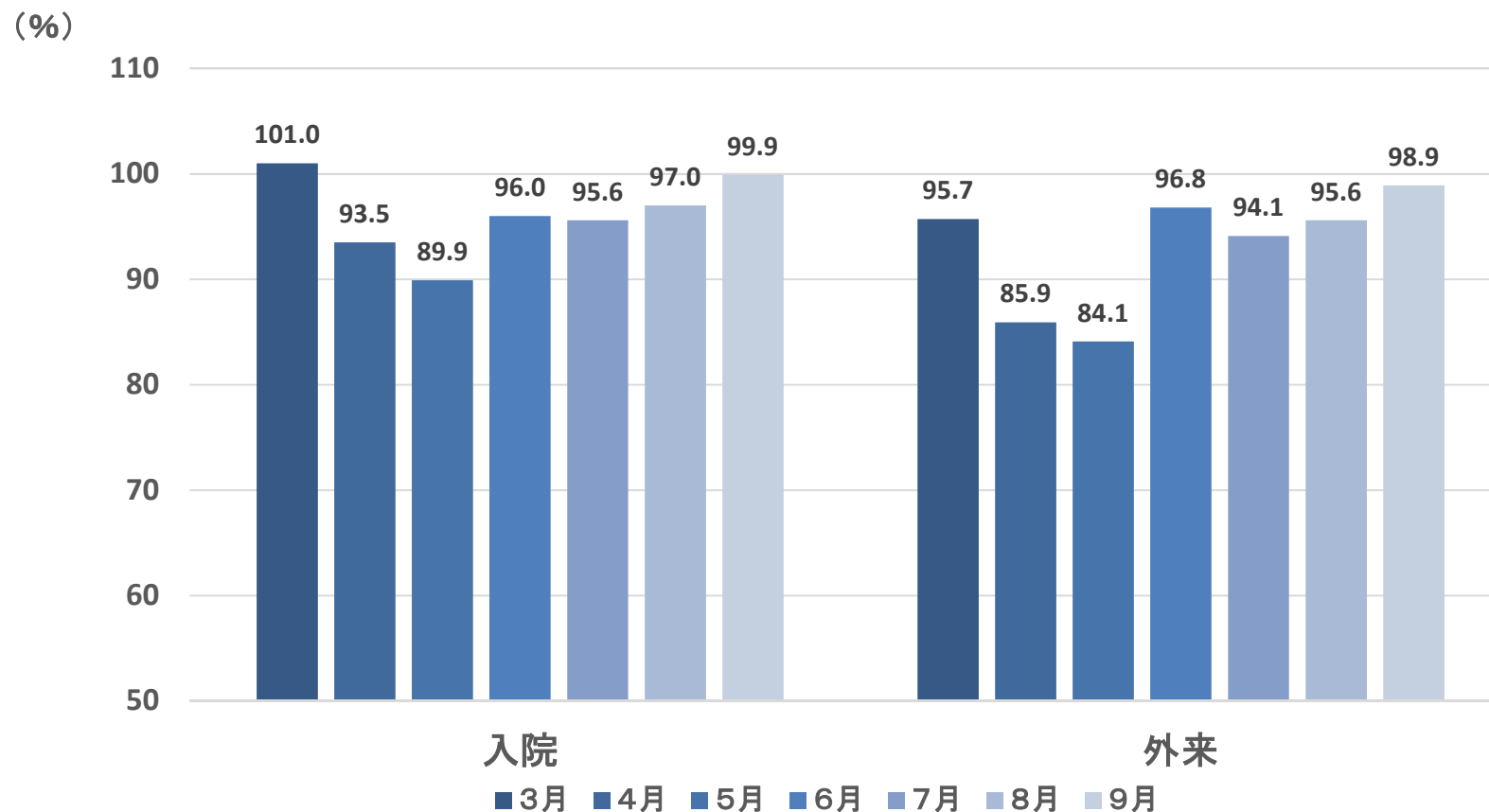
※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

※2 総計には、食事・生活療養費、訪問看護療養費が含まれる。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化③（医科のうち入院・外来別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月以降は、入院、外来ともに減少している。双方とも6月には下げ幅に回復がみられた。

医科のうち入院・外来別点数の前年同月比

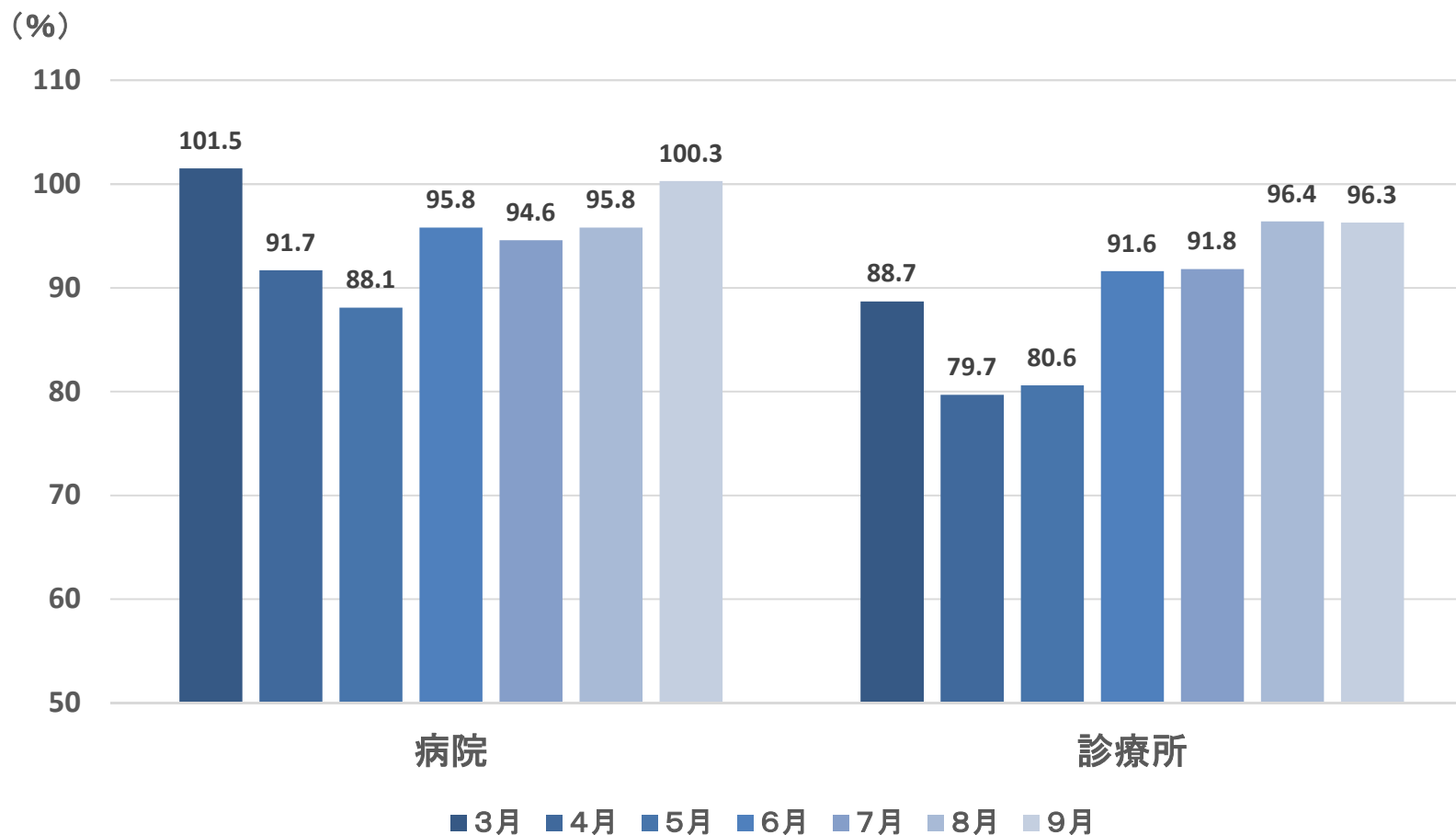


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化④（医科のうち病院・診療科別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月以降は、病院も診療所も減少しているが、診療所の減少の方が大きい。双方とも6月には下げ幅に回復がみられ、病院の方が回復傾向にある。

医科のうち病院・診療所別点数の前年同月比



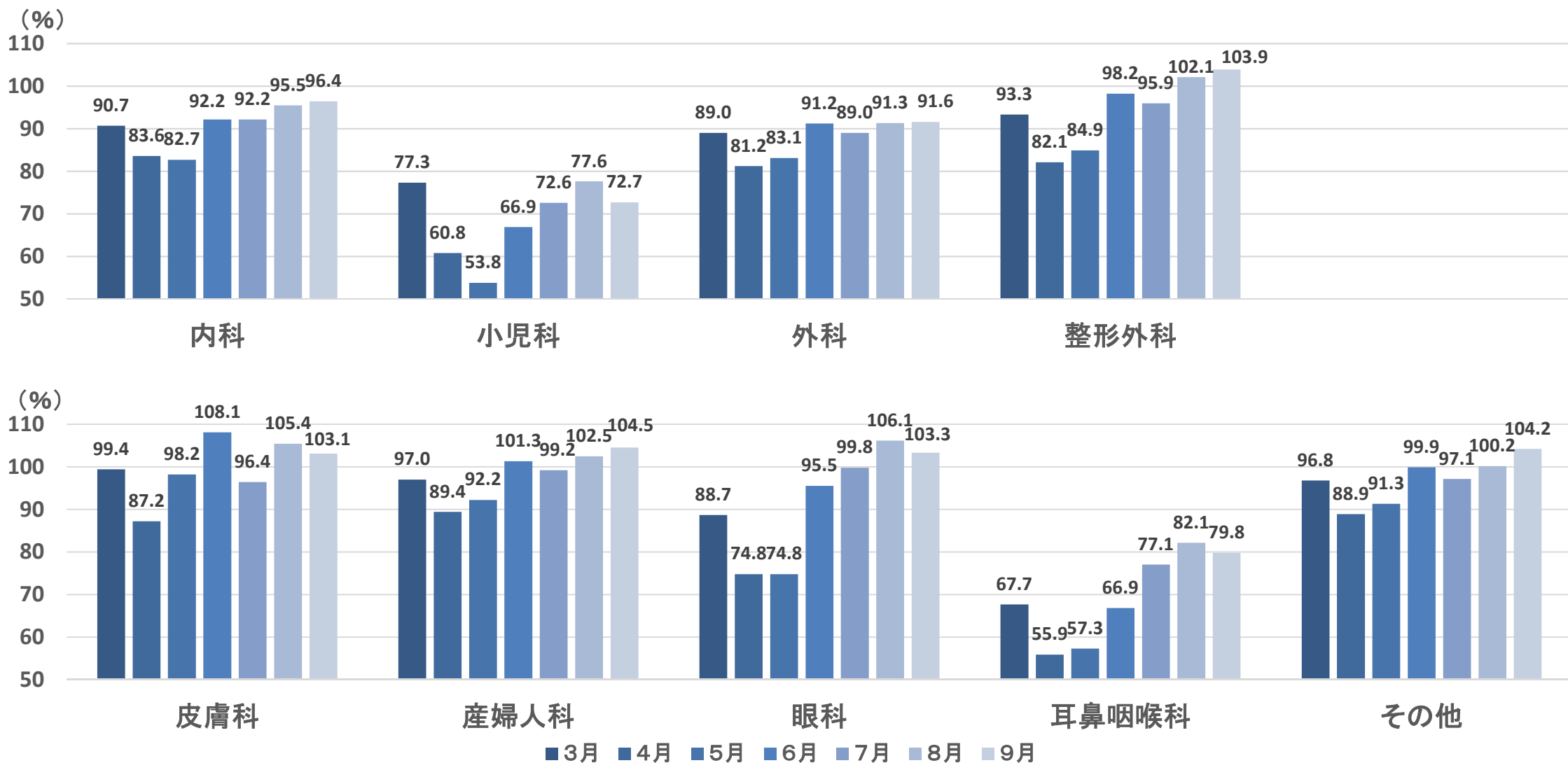
※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報による点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

※2 再審査等の調整前の数値。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化⑤（医科診療所の診療科別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月以降は、いずれの診療科も減少しているが、耳鼻咽喉科、小児科の減少が顕著。6月には下げ幅に回復がみられたが、診療科ごとにバラツキがある。

医科診療所の診療科別レセプト点数の前年同月比



※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報による点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 再審査等の調整前の数値。